

特殊研 F-98

平成11年度～平成13年度科学研究費補助金（基盤研究（C））の成果報告（中間）資料

研究課題：中等教育及び高等教育段階で学習障害をもつ学生へのサポートに関する日米比較研究
～米国カリフォルニア州と日本3大都市圏を対象に～

課題番号：11610308

研究代表者：柘植雅義（国立特殊教育総合研究所 軽度知的障害教育研究室 室長）

中学校・高等学校における学習障害への対応 に関する日米比較調査

— 日本3大都市圏とアメリカ・カリフォルニア地区を対象に —

平成13年5月

研究代表者 柘植雅義

国立特殊教育総合研究所

要 旨

本研究は、公立中学校と高等学校における学習障害のある生徒へのサポートのあり方の日米での特徴を明らかにすることを目的とした。そのために、日本側では、3大都市圏（東京圏、大阪圏、名古屋圏）のそれぞれ4つの地域、合計で12地域を対象に、アメリカ側では、カリフォルニア州ロサンゼルス郡とその周辺の4地域を対象に実施した。対象者は、校長、通常の学級の教師、それに、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）及び特殊学級の教師で、それぞれに対して郵送による質問紙調査を実施した。質問項目は、校長に対しては、学校に関する基本情報、校内の特殊教育サービス、今後の課題等とした。一方、通常の学級の教師、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）及び特殊学級の教師に対しては、教師に関する基本情報、学級の状況、学級内外でのサポートの状況、家族のニーズ、指導上の困難等とした。その結果、校内でのサポートでは、通常学級、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）、特殊学級の学級種別、教師、生徒、保護者の別、さらには、中学校と高等学校の別、に関わらず、日本と比べてアメリカでは多様なサポートを非常に多くの割合で受けていることが分かった。校外でのサポートでも、校内のサポートほどではないものの、やはり、日本と比べてアメリカでは多くのサポートがなされていることが分かった。また、教師の学級別の指導経験では、特殊教育の担当教師と比べて通常教育の教師は、他の学級主の経験が少ないのは、日米で共通していたが、アメリカでは、特殊学級の教員のリソースルームの経験が特に高かったのが特徴的である。次に、教師の受けた現職教育（通常教育と特殊教育）では、通常教育と特殊教育、中学校と高等学校、学級種別、受けた時期（これまでか昨年か）に関わらず、アメリカの方が多くの教員が現職教育を多く受けている状況が分かった。この差は、特に、通常の学級の教員が特殊教育に関する現職教育を受けていることに大きく現れており、アメリカでは、通常教育の教師で特殊教育の現職教育を受ける割合が非常に高いことが分かった。次に、学習障害のある生徒の指導に対する教師の気持ちについては、学習障害のある生徒の指導において困難を示す教師の割合は、日米でほぼ同じような状況であるのに対して、指導へ好意的な気持ちを持っていると答えた教師の割合は、中学校と高等学校、学級種に関わらず、アメリカでかなり高くなっていることが分かった。そして、その指導上の困難の内容については、日本では、中学校と高等学校ともに、個別の指導計画の作成やアカデミックスキルの指導に困難を感じる割合が高いが、アメリカでは、中学校と高等学校ともに、問題行動への困難を示す割合が最も高く、学級経営に困難を感じる割合がそれに次ぐほど高くなっている。以上のように、学習障害への対応について、日米での様々な特徴が明らかになった。さらに、これらの結果に基づき、日米間の特徴の違いについていくつかの考察を加えた。

1. 目 的

日本では、1990年前後から、社会の学習障害(LD)への関心が高まり、やがて全国学習障害親の会が設立され、学術研究が進展していった。そのような中、1992年に文部省の学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議がスタートし、中間報告を経て、1999年に報告書をまとめた。その中で、学習障害への教育的支援の具体的な方略が示された。1990年からほぼ10年の経過後のことである。(柘植, 1999d)

一方、アメリカでは、1975年のPL94-142(障害児教育法)により、学習障害の定義が示され、学習障害のある子どもへの教育的サポートが始まった。それは、IEP(個別教育計画)、LRE(最も制約の少ない環境)、FAPE(無償で適切な公教育)等、現在のアメリカはもとより、現在の世界各国の特殊教育の在り様に大きな影響を与えるまでになった諸概念が一気に示された公法であった。しかし、社会的に学習障害が話題になっていったきっかけは、それから10数年遡る1963年の親の会によるシカゴでの大会であった。その大会でサミュエル・カーク博士(Dr. Samuel A. Kirk)が学習障害について講演したのである。その大会を契機に、その後、学術学会が設立され、学術誌が創刊され、やがて、1975年に、PL94-142として国の教育行政の具体的な方向として結実していった。

このように、日米両国を比べてみると、親の会が一つのきっかけになっていること、その後、学術研究が大きく進展していったこと、そして、教育行政サイドから学習障害への教育的支援のありようについての具体的な方向が示されるまでに10年ほどかかっていること等、日米間で多くの共通点があることが分かる。(Tsuge, 1998; Tsuge & Keogh, 1999; Tsuge, 2001b)

アメリカは、1975年から見ても、現在にいたるまで25年以上が経過している。一方、日本では、昨年に、報告書が示されたばかりである。したがって、このような時期に、日米間で、学校における教育の実際と課題を比較して、両国の特徴を明らかにしておくことは、これからいよいよ学習障害への教育的支援が始まる日本にとって重要である。そして、その際、小学校については、教育実践や学術研究の蓄積があるものの、中学校や高等学校段階ではそれらが非常に少ない我が国の現状から、特に、前期及び後期中等教育段階における日米間の比較は重要である。(柘植&Keogh, 1999; Tsuge, 2000; 柘植, 2000g)

このことから、本研究では、公立中学校と高等学校における学習障害のある生徒へのサポートのあり方の日米での特徴を明らかにすることを目的とした。

そのために、調査対象としては、通常の学級(以下、通常学級と言う)、通級指導教室(アメリカではリソースルーム)、それに特殊学級の各教師、及び校長とした。そして、調査の内容としては、学級や学校の状況、教師が受けている現職教育の状況、教師がこれまでに経験した学級種別、校内及び校外で生徒、教師、保護者が受けているサポートの状況等とした。

2. 方 法

質問紙の構造:

まず、アメリカ版について作成し(柘植&Keogh, 2000)、日本版についてはアメリカ版を日本語に翻

目 次

要 旨	1
1. 目 的	2
2. 方 法	2
3. 結 果	6
3.1. 校長用	6
3.1.1. 学校の規模（民族の分布を含む）	6
3.1.2. インクルージョンという教育の理念	6
3.1.3. 通常学級、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）、 特殊学級に在籍する学習障害のある生徒	7
3.1.4. 校内の現職教育（通常の教育、特殊教育）の有無	7
3.1.5. サポートの場	8
3.1.6. 高等学校卒業後の進路	8
3.1.7. 今後求められる学習障害のある生徒へのサポート	9
3.1.8. 自由記述	9
3.2. 教員用	9
3.2.1. 校内でのサポートの状況	9
3.2.2. 校外でのサポートの状況	12
3.2.3. 教師の学級別の指導経験	14
3.2.4. 教師の受けた現職教育（通常教育、特殊教育）	15
3.2.5. 学習障害のある生徒の指導に対する教師の気持ち	17
3.2.6. 指導上の困難の内容	18
3.2.7. 自由記述	21
4. 考 察	23
文 献	26
資 料 <アンケート用紙>	
謝 辞	

訳したもの（柘植，2001）を使用した。質問紙は、中学校用と高等学校用からなり、それぞれ校長用、通常学級の教員用、特殊教育の教員用に分かれる。特殊教育の教員用は、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）と特殊学級を想定している。表1参照。なお、日本版については、日本の教育事情等の観点から一部を修正した。主な修正点は校長用で、インクルージョンという教育理念についての知識を問うものと、これからの日本の学習障害のある生徒への教育に求められるものを追加したことである。前者は、日本ではインクルージョンという教育理念がまだ十分には広まっていないという状況から、また、後者については、日本では学習障害のある生徒への教育のシステム作りや実践が現状ではまだ試行の段階にあることから判断して修正を行った。

表1 アンケート用紙の構造

校長用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の規模（民族の分布を含む） ・インクルージョンという教育の理念（*） ・通常学級、通級指導教室、特殊学級に在籍する学習障害のある生徒 ・校内の現職教育（通常教育、特殊教育）の有無 ・サポートの場 ・高等学校卒業後の進路先 ・今後求められる学習障害のある生徒へのサポート（*） ・自由記述
教員用（通常学級、通級指導教室（アメリカはリソースルーム）、及び特殊学級）	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのサポートの状況 ・校外でのサポートの状況 ・教師の学級別の指導経験 ・教師の受けた現職教育（通常教育、特殊教育） ・学習障害のある生徒の指導に対する教師の感情 ・指導上の困難の内容 ・自由記述

（*）は、日本版において一部修正（追加）がなされた項目。

対象地区：

アメリカでは、カリフォルニア州ロサンゼルス郡及びその周辺の郡の4つの学区（W区、X区、Y区、Z区）を対象とした。一方、日本では、日本3大都市圏である東京圏、大阪圏、名古屋圏の中のそれぞれ4地区、計12地区を対象とした。ここでいう地区とは、各圏内の都府県、政令指定都市、市、区のいずれかを指す。

対象者：

日米共に、対象地区における公立の中学校と高等学校の、校長、通常学級の教員、通級指導教室（アメリカでは、リソースルーム）の教員、及び特殊学級の教員である。ただし、日本では、高等学校には通級指導教室と特殊学級は設置されていないので、通常学級のみが対象である。また、日本の高等学校につい

ては、普通高校、工業高校、商業高校の3校種を対象とした。

手続き：

アメリカでの調査は、筆者がカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に滞在中に行われた。調査用紙は、1998年の1月から3月にかけて、ロサンゼルス郡及びその周辺の学校区の4地区のうち、3地区については、各学校分の質問紙を一括して学校区に郵送し、各学校区へ配布した。ただし、1地区については、その地区の学校と共同研究を進めている大学教授に質問紙のオリジナルを1部ずつ郵送し、その教授がそれを必要枚数コピーし、各学校に配布した。質問紙は、郵送されてから、1～2か月で個別に直接UCLAへ返送された。詳しくは、柘植&Keogh（2000）を参照。

日本での調査は、平成11年（1999年）10月に、3都市圏のそれぞれ4地区、計12地区の教育委員会へ一括して依頼し、質問紙を郵送した。その後、各教育委員会が選択した学校に発送した。回収は、各アンケート用紙に添付されている返信用で各個別に、平成11年（1999年）11月末までに、国立特殊教育総合研究所に郵送により返送された。

回答数：

アメリカでは、4つの学校区からそれぞれ、46, 18, 13, 22名の計99名から回答があった。表2参照。その内訳は、中学校では校長が4名、通常学級の教師が14名、リソースルームの教師が8名、特殊学級の教師が12名であった。一方、高等学校では校長6名、通常学級の教師が24名、リソースルームの教師が12名、特殊学級の教師が16名であった。回収率は、郵送数が把握されている3地区については、それぞれ、51%、50%、41%であった。

表2 アンケート用紙の回収数（アメリカ）

学 校 区	A	B	C	D	合 計
中 学 校					
校長					4
通常学級の教員					14
通級指導教室の教員					8
特殊学級の教員					12
その他（複数担当）					3
					合 計 41
高 等 学 校					
校長					6
通常学級の教員					24
通級指導教室の教員					12
特殊学級の教員					16
その他（複数担当）					0
					合 計 58
	46	18	13	22	総 計 99

日本では、3都市圏のそれぞれ4地区、計12地区から、536名の回答を得た。表3を参照。その内訳は、中学校では、校長38名、通常学級の教員152名、通級指導教室の教員12名、特殊学級の教員62名で、総計264名、一方、高校では、校長52名、通常学級の教員220名で、総計272名であった。回収率は、中学校では、校長が79%、通常学級の教師が63%、特殊教育の教師（通級指導教室と特殊学級）が31%、高等学校では、校長が54%、教師（すべて通常学級）が54%であった。

倫理委員会での許可：

アメリカでのアンケート調査の実施にあたっては、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の人間を対象とした研究に関する倫理委員会（Human Subject Committee）で事前に許可が得られた。

分析の観点：

校長、及び、各学級種の別、及び中学校と高等学校の別に、それぞれの質問項目について比較分析する。

表3 アンケート用紙の回収数（日本）

	東京圏	大阪圏	名古屋圏	小計
中学校				
校長	13	13	12	38
通常学級の教員	43	52	57	152
通級指導教室の教員	5	3	4	12
特殊学級の教員	11	24	27	62
			合計	264
高等学校				
普通高校				
校長				28
通常学級の教員				114
工業高校				
校長				12
通常学級の教員				49
商業高校				
校長				12
通常学級の教員				54
小計				
校長	9	15	28	52
通常学級の教員	38*	61*	121*	220
			合計	272
圏別合計	119	168	249	総計 536

注1：*印は校種不明を1名ずつ含むので、校種別集計では3名少なく217名であった。

注2：東京圏のある地区からは、中学校からの回答のみであった。

3. 結 果

3.1. 校長用

3.1.1. 学校の規模（民族の分布を含む）

日 本：

学級数：中学校では、平均で17.8学級、最大で29学級、最小で4学級であった。一方、高等学校では、平均で22.9学級、最大で32学級、最小で12学級であった。

生徒数：中学校では、平均で582.7人、最大で1020人、最小で63人であった。一方、高等学校では、平均で879.4人、最大で1279人、最小で480人であった。

民族の分布：中学校では、平均で、日本人が99.25%、日本人以外のアジア系が0.49%、白人が0.04%、黒人が0%、ヒスパニックが0.07%、その他が0.09%であった。一方、高等学校では、平均で、日本人が99.33%、日本人以外のアジア系が0.59%、白人が0%、黒人が0%、ヒスパニックが0%、その他が0%であった。なお、中学校で最も日本人が少ない学校では2.2%、高等学校では3%が日本人以外であった。

教員数：中学校では、平均で31.4人、最大で53人、最小で15人であった。一方、高等学校では、平均で59.6人、最大で102人、最小で34人であった。

アメリカ：

学級数：中学校では、平均で30学級、最大で36学級、最小で24学級であった。一方、高等学校では、平均で75学級、最大で100学級、最小で34学級であった。

生徒数：中学校では、平均で773人、最大で840人、最小で706人であった。一方、高等学校では、平均で2023人、最大で2954人、最小で1100人であった。

民族の分布：一般に、アメリカでは、学校区による違いが大きいため、対象にした4つの学校区ごとの状況を示す。まず、W区では、ホワイトが79.2%、ヒスパニックが11.2%、アジア&パシフィックが8.0%、ブラックが0.9%、その他が0.6%であった。X区では、ホワイトが75.0%、ヒスパニックが14.0%、アジア&パシフィックが6.2%、ブラックが4.4%、その他が0.5%であった。Y区では、ホワイトが79.9%、ヒスパニックが12.7%、アジア&パシフィックが5.3%、ブラックが1.5%、その他が0.6%であった。Z区では、ホワイトが63.0%、ヒスパニックが25.6%、アジア&パシフィックが7.2%、ブラックが3.8%、その他が0.5%であった。この地域では、4学校区ともホワイトの割合が高い地域である。

教員数：中学校では、平均で33人、最大で37人、最小で29人であった。一方、高等学校では、平均で80人、最大で107人、最小で45人であった。

3.1.2. インクルージョンという教育の理念

日 本：

図1によると、インクルージョンという教育の理念について知っていると感じた校長は、中学校で61%、高等学校で25%であった。高等学校よりも中学校において、この理念についての周知がいち早く進

んでいることが分かる。

アメリカ：

一方、この理念の周知が深いアメリカについては、この理念の校内での状況について質問した。それによると、インクルージョンに関する学校の方針については、中学校では、フルインクルージョンが50%、インクルージョンが25%、セグリゲーションが25%であった。一方、高等学校では、フルインクルージョンが40%、インクルージョンが40%、セグリゲーションが20%であった。

そして、そのような方針をとっている理由としては、中学校では、生徒のニーズによるが最も多く50%、ついで保護者の希望と教師の能力がそれぞれ25%であった。一方、高等学校では、生徒のニーズによるが最も多く56%、ついで保護者の希望が33%と高かった。

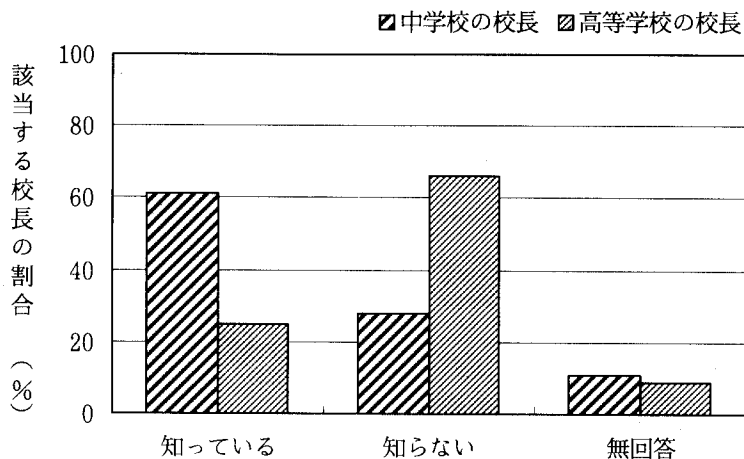


図1 インクルージョンという教育の理念を知っている校長の割合 <日本>

3.1.3. 通常学級、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）、特殊学級に在籍する学習障害のある生徒

日本：

図2によると、通常の学級に学習障害の生徒が在籍すると答えた校長の割合は、中学校で37%、高等学校で4%であった。在籍しないと答えた割合は、中学校で34%、高等学校で88%で、無回答は、中学校で29%、高等学校で8%であった。

アメリカ：

一方、アメリカでは、中学校及び高等学校共に、通常の学級に学習障害の生徒がいないと答えた者はいなかった。

また、IEP（個別教育計画）を持っている生徒（学習障害を含む特別な教育的ニーズのある生徒）の割合は、中学校では、平均で11.0%、最大で11.3%、最小で10.7%であった。一方、高等学校では、平均で11.0%、最大で12.1%、最小で9.9%であった。

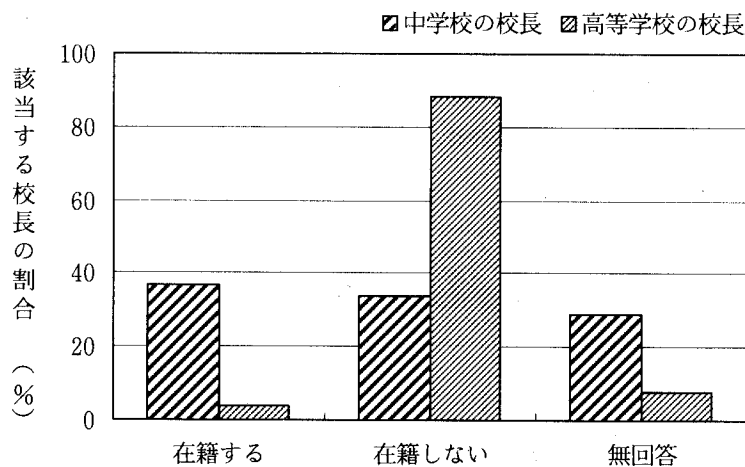


図2 通常の学級に学習障害の生徒が在籍すると答えた校長の割合 <日本>

3.1.4. 校内の現職教育（通常の教育、特殊教育）の有無

日本：

校内に通常教育の現職教育があると答えた校長の割合は、中学校で58%、高等学校で63%であった。

また、校内に特殊教育の現職教育があると答えた校長の割合は、中学校で61%、高等学校で4%であった。

アメリカ：

一方、アメリカでは、校内に通常教育の現職教育があると答えた校長の割合は、中学校及び高等学校共に100%であった。また、校内に特殊教育の現職教育があると答えた校長の割合も、中学校及び高等学校共に100%であった。

3.1.5. サポートの場

日本：

比較的回答が多かった中学校について紹介する。通常の学級に学習障害の生徒が在籍していると回答した者は14校、通常の学級に在籍している学習障害のある生徒で通級指導教室を利用している者がいるとの回答は8校、特殊学級に在籍しているとの回答が16校であった。通常の学級に学習障害の生徒が在籍していると回答した14校では、その生徒の人数は平均で3.6人、最大で21人、最小で1人であった。通常の学級に在籍している学習障害のある生徒で通級指導教室を利用している者がいると回答した8校では、そのような生徒は平均で2.1人、最大で6人、最小で1人であった。また、学習障害のある生徒が特殊学級に在籍していると回答した16校では、そのような生徒は平均で6.6人で、最大で27人、最小で1人であった。

アメリカ：

中学校及び高等学校を問わず、通常の学級、リソースルーム、及び特殊学級のいずれにも学習障害のある生徒がいるが、その割合は、学校間でかなりの差である。たとえば、対象としたある学校区の4つの高等学校では、通常の学級、リソースルーム、特殊学級の割合がそれぞれ、H1校で24, 45, 31%、H2校で69, 8, 23%、H3校で39, 39, 22%、H4校で59, 3, 38%であった。

3.1.6. 高等学校卒業後の進路先

日本：

中学校では、この問いに回答のあった15校のうち、12校で全員(100%)が進学していることが分かった。そのうち、高等学校への進学が3校で100%、学習障害のある生徒のための学校への進学が9校で100%であった。また、就職した生徒がいる3校の就職の割合は、それぞれ100%、50%、25%であった。一方、高等学校では、4%の校長が、学習障害の生徒が在籍すると回答しているが、進路先の回答をした者はいなかった。

アメリカ：

中学校を卒業した学習障害のある生徒は全て高等学校へ進学している。ある学校区の高等学校では、卒業生のうち、40%がコミュニティーカレッジへ進学し、2%が大学に入学した。45%が就職し、軍に入った者は3%いた。

3.1.7. 今後求められる学習障害のある生徒へのサポート

日本：

これは、日本側に対してのみ実施された。中学校では、チームティーチングの導入や拡充が最も多く、個別の指導計画の作成、特殊教育の専門的な教員の配置、授業の工夫、校内支援体制の確立が続いた。一方、高等学校では、特殊教育の専門的な教員の配置が最も多く、教育センター（特殊教育センター）との連携、盲・聾・養護学校との連携、個別の指導計画の作成、校内支援体制の確立が続いた。

3.1.8. 自由記述

日本：

<中学校の校長>

5名の記述があった。その内容は、教員への理解推進と研修の必要性、生徒間の意識改革の必要性、個別指導ができる教員配置、今後の指導体制への期待、成人になってからのサポートのありようの検討などが、述べられた。

<高等学校の校長>

5名の記述があった。その内容は、教員への啓蒙活動の必要性、インターネット利用による学習の模索などが述べられたが、現在の高等学校ではとても対応できないので、子どもの特性に応じた教育を行う専門的な機関が必要、といった意見もあった。また、普通高校へのアンケートの意味を疑問視するものや、高等学校では校長用、教員用共にほとんど答えられない、といった意見もあった。

<中学校と高等学校間の特徴>

中学校では、それぞれの校長が、現状を認識しつつ今後の課題や方向を述べているのに対して、高等学校では、その様な回答者も3名いるものの、普通高校へのこのような調査自体の意味が理解できない（意味がないのでは）等と回答した者が2名いた。

アメリカ：

<中学校の校長>

通常学級とリソースルームや特殊学級の教師間の連携が大切であろう。

<高等学校の校長>

なし

3.2. 教員用

3.2.1. 校内でのサポートの状況

<生徒>

日本：

図3によると、中学校では、通常学級で学習障害のある生徒は、通級指導教室から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は23%、特殊学級からは34%、スクールサイコロジストからは2%

であった。通級指導教室で学習障害のある生徒は、通常学級で何らかのサポートを受けていると答えた通級指導教室の教員は33%、特殊学級からは8%、スクールサイコロジストからは8%であった。特殊学級で学習障害のある生徒は、通常学級から何らかのサポートを受けていると答えた特殊学級の教員は47%、通級指導教室からは5%、スクールサイコロジストからは2%であった。

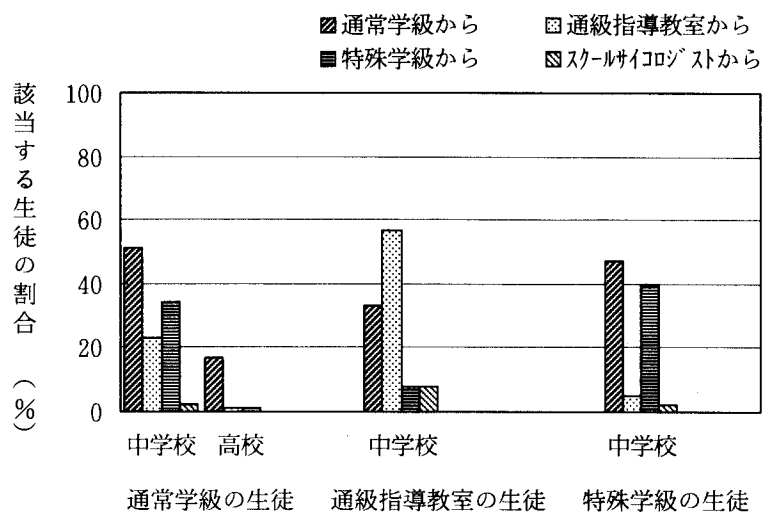


図3 校内で学習障害のある生徒が受けるサポートの状況 <日本>

アメリカ:

一方、アメリカでは、図4に示すように、学習障害の生徒の在籍が通常学級、リソースルーム、特殊学級を問わず、他の学級種からサポートを受けていると答えた教師は50%を超えている。また、スクールサイコロジストからサポートを受けていると答えた教師も50%を超えている。スクールサイコロジストからのサポートは、通常学級の生徒と比べて、リソースルームや特殊学級の生徒がより高く、中学校と高等学校を問わず、いずれも70%を超える高い値になっている。

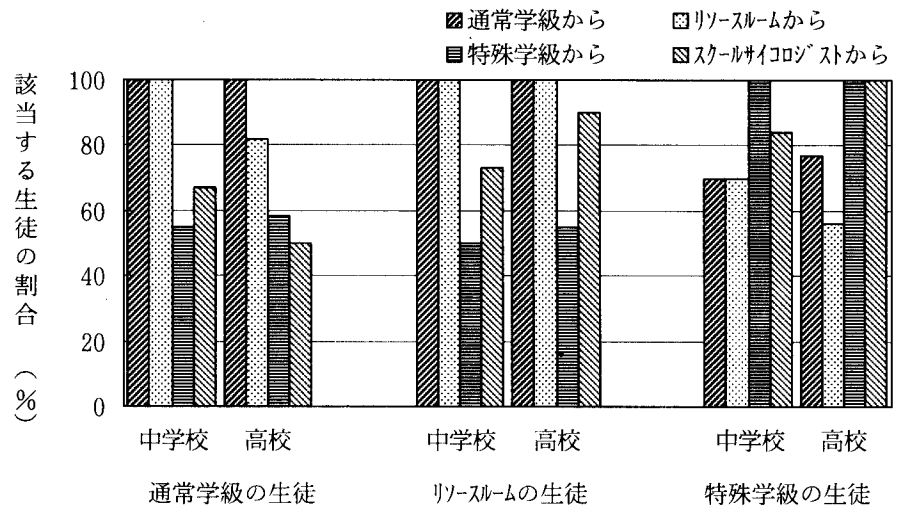


図4 校内で学習障害のある生徒が受けるサポートの状況 <アメリカ>

<教師>

日本:

図5によると、中学校では、通常学級の教師で、通級指導教室から何らかのサポートを受けていると答えたのは14%、特殊学級からは26%、スクールサイコロジストからは4%であった。通級指導教室の教師で、通常学級から何らかのサポートを受けていると答えたのは42%、特殊学級からは33%、ス

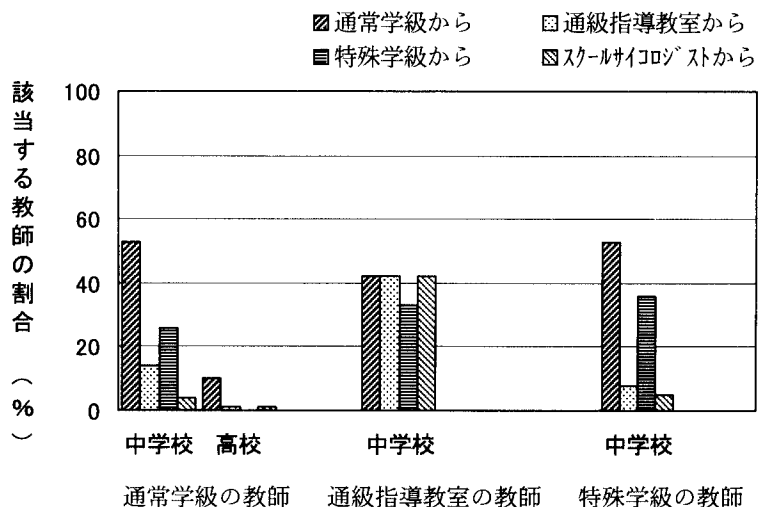


図5 校内で教師が受けるサポートの状況 <日本>

クールサイコジストからは42%であった。特殊学級の教師で、通常学級から何らかのサポートを受けていると答えたのは53%、通級指導教室からは8%、スクールサイコジストからは5%であった。

アメリカ：

一方、アメリカでは、図

6に示すように、生徒同様、通常学級、リソースルーム、特殊学級を問わず、他の学級種からサポートを受けていると答えた教師は多く、特に、通常学級の教師でリソースルームから受けていると答えたものは中学校と高等学校共に高く80%を超えた。また、スクールサイ

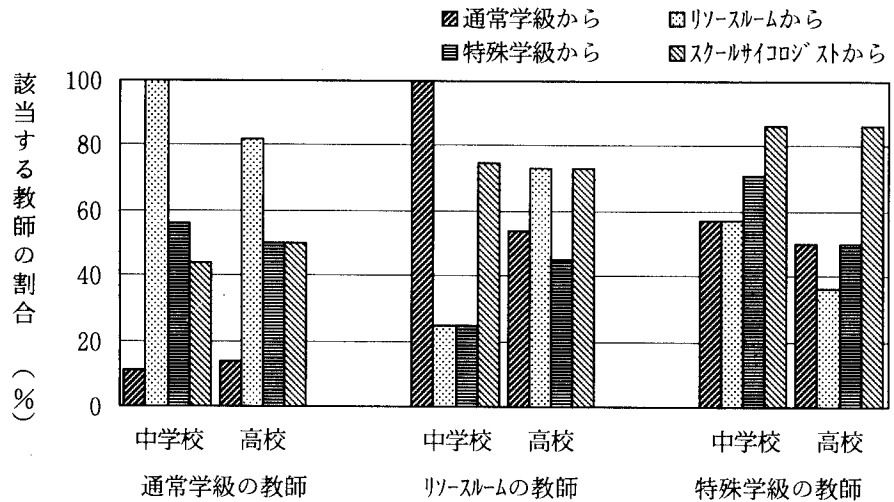


図6 校内で教師が受けるサポートの状況 <アメリカ>

コロジストからサポートを受けていると答えた教師も40%を超えている。スクールサイコジストからのサポートは、通常学級の教師と比べて、リソースルームや特殊学級の教師がより高く、中学校と高等学校を問わず、いずれも70%を超える高い値になっている。

<保護者>

日本：

図7によると、中学校では、通常学級で学習障害のある生徒の保護者は、通級指導教室から何らかのサポートを受けていると答えた教師は11%、特殊学級からは26%、スクールサイコジストからは6%であった。通級指導教室で学習障害のある生徒の保護者は、通常学級で何らかのサポートを受けていると答えた教師は25%、特殊学級からは17%、スクールサイコジストからは8%であった。特殊学級で学習障害のある生徒の保護者は、通常学級から何らかのサポートを受けていると答えた特殊学級の教員は35%、通級指導教室からは5%、スクールサイコジストからは3%であった。

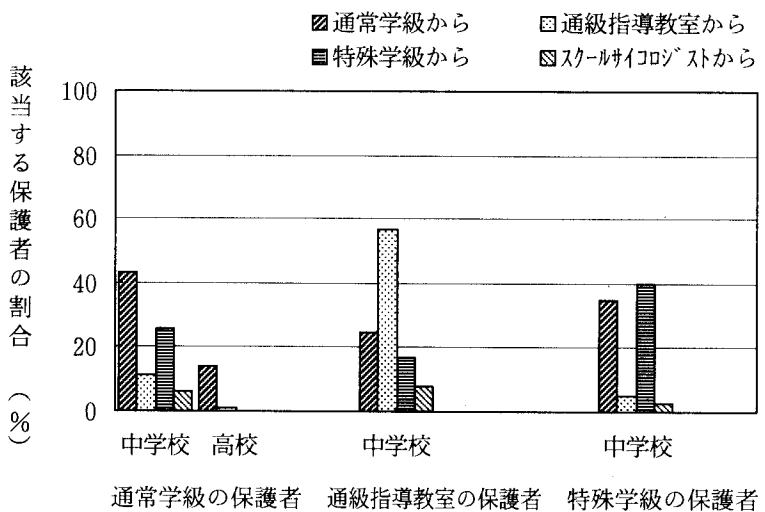


図7 校内で保護者が受けるサポートの状況 <日本>

アメリカ：

一方、アメリカでは、図8に示すように、生徒と教師同様、通常学級、リソースルーム、特殊学級を問わず、他の学級種からサポートを受けていると答えた教師は多い。また、スクールサイコジストからサ

ポートを受けていると答えた教師が、中高別や学級種を問わず、60%を超えている。

以上のことから、中学校と高等学校、及び、通常学級、通級指導教室（アメリカでは、リソースルーム）、特殊学級を問わず、生徒、教師、保護者をも問わず、日本と比べてアメリカでは、校内で受けるサポートが非

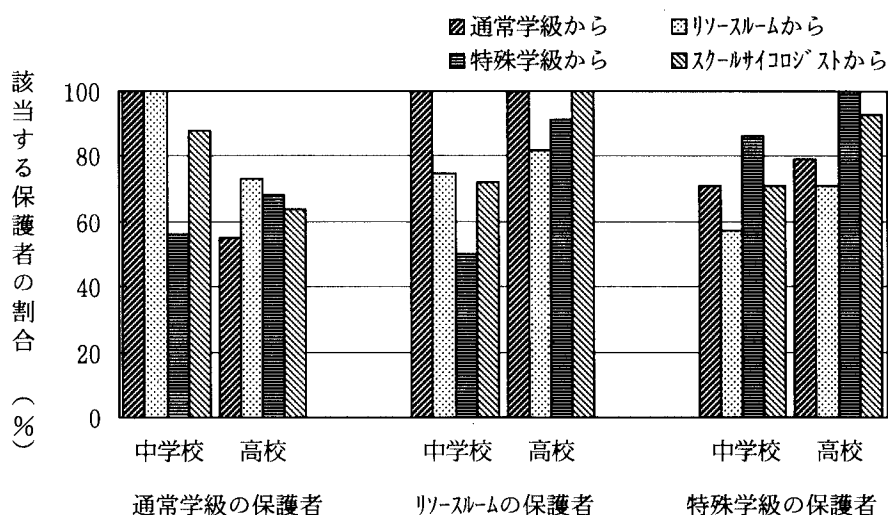


図8 校内で保護者が受けるサポートの状況 <アメリカ>

常に多彩で多くなっていることが分かる。特にスクールサイコロジストからのサポートが通常学級、リソースルーム、特殊学級からのサポートと同様に多いのも特徴的である。

3.2.2. 校外でのサポートの状況

<生徒>

日本:

図9によると、中学校では、通常学級で学習障害のある生徒は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は10%、カウンセリングセンターからは4%、トレーニングセンターからは0%、大学からは3%であった。通級指導教室で学習障害のある生徒は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通級指導教室の教員は25%、カウンセリング

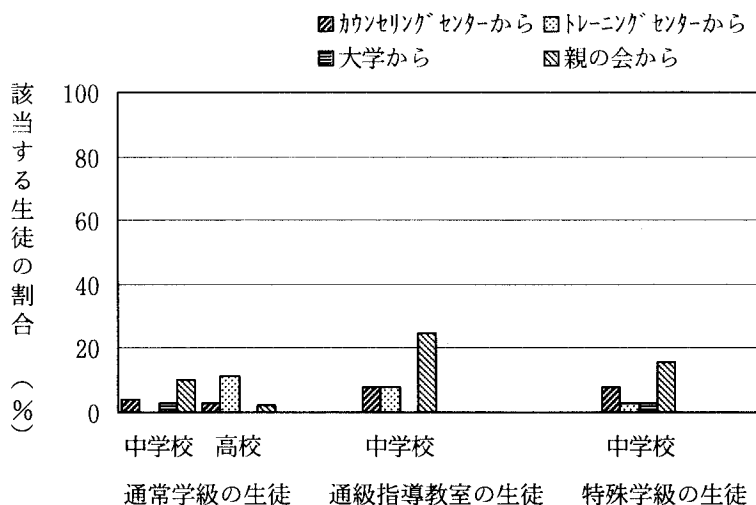


図9 校外で学習障害のある生徒が受けるサポートの状況 <日本>

センターからは8%、トレーニングセンターからは8%、大学からは0%であった。特殊学級で学習障害のある生徒は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた特殊学級の教員は16%、カウンセリングセンターからは8%、トレーニングセンターからは3%、大学からは3%であった。一方、高等学校では、通常学級で学習障害のある生徒は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は2%、カウンセリングセンターからは3%、トレーニングセンターからは11%、大学からは0%であった。

アメリカ:

一方、アメリカでは、図10に示すように、中学校と高等学校ともに、特殊学級の生徒が校外からサポー

トを受けていると答えた教師が多かった。その内訳は、カウンセリングセンターから、トレーニングセンターから、大学から、そして親の会からであった。

<教師>

日本：

図11によると、中学校では、通常学級の教師で、教育委員会から何らかのサポ

ートを受けていると答えたのは34%、教員組合からは9%、大学から3%、学術学会からは2%であった。通級指導教室の教師で、教育委員会から何らかのサポートを受けていると答えたのは58%、教員組合からは8%、大学から25%、学術学会からは33%であった。特殊学級の教師で、教育委員会から何らかのサポートを受けていると答えたのは58%、教員組合からは11%、大学から3%、学術学会からは6%であ

った。一方、高等学校では、教育委員会から何らかのサポートを受けていると答えた教師は31%、教員組合からは10%、大学から2%、学術学会からは0%であった。

アメリカ：

一方、アメリカでは、図12に示すように、特殊学級、リソースルーム、そして通常学級の順で、教師が受けるサポートが多かった。その内訳は、教育委員会から、教員協会から、学術学会から、そして大学からであった。

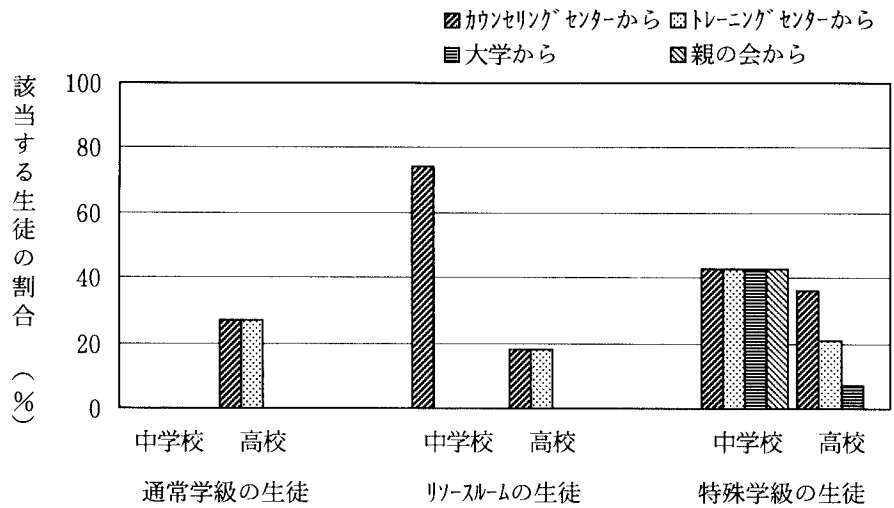


図10 校外で学習障害のある生徒が受けるサポートの状況 <アメリカ>

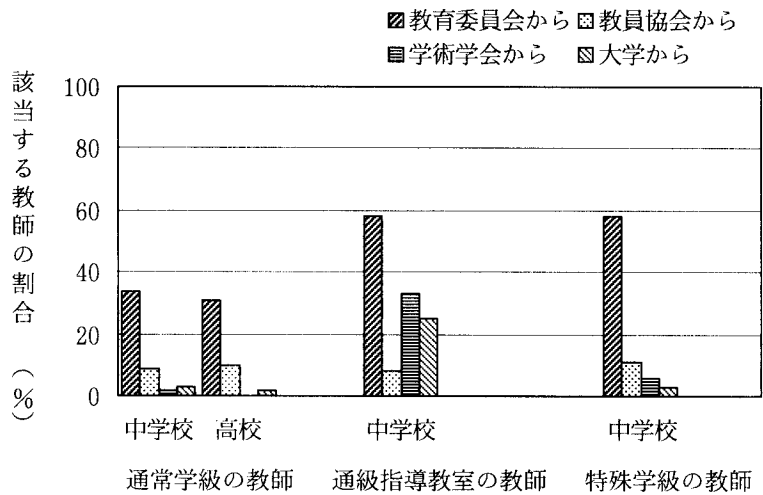


図11 校外で教師が受けるサポートの状況 <日本>

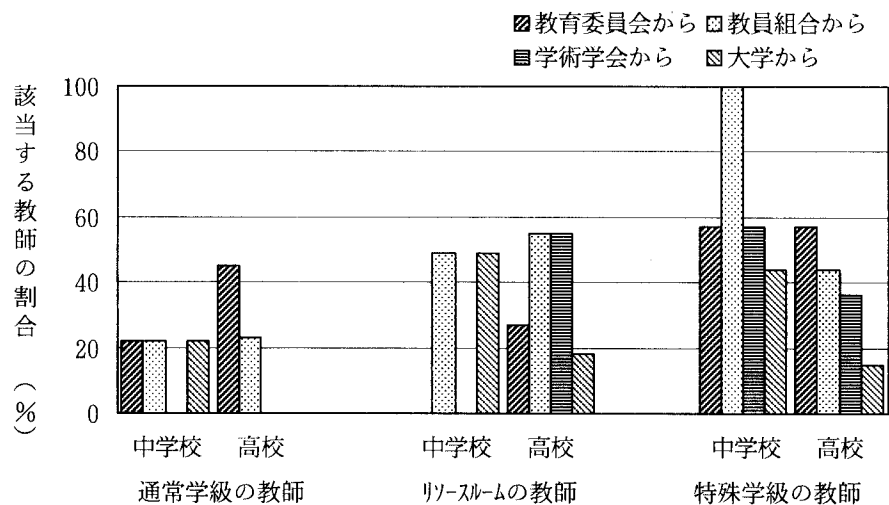


図12 校外で教師が受けるサポートの状況 <アメリカ>

<保護者>

日本：

図13によると、中学校では、通常学級で学習障害のある生徒の保護者は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は5%、特殊教育センターからは5%、病院からは16%、大学からは7%であった。通級指導教室で学習障害のある生徒の保護者は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は25%、特殊教育センターからは0%、病院からは17%、大学からは17%であった。特殊学級で学習障害のある生徒の保護者は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた通常学級の教員は19%、特殊教育センターからは8%、病院からは18%、大学からは6%であった。一方、高等学校では、学習障害のある生徒の保護者は、親の会から何らかのサポートを受けていると答えた教師は1%、特殊教育センターからは2%、病院からは7%、大学からは0%であった。

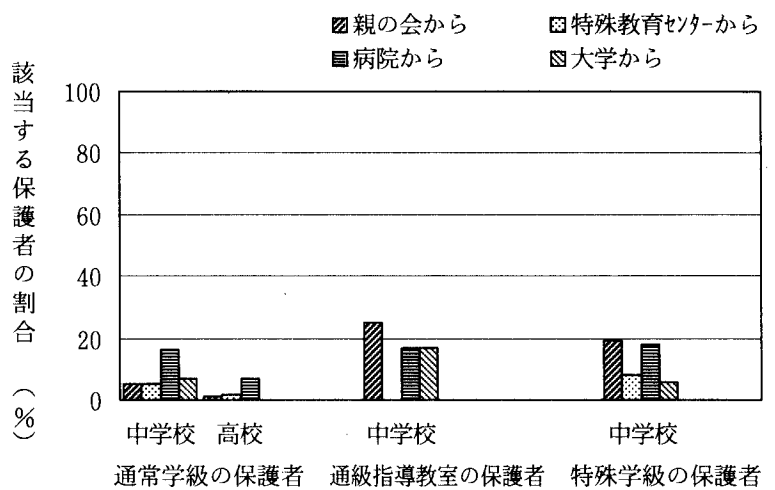


図13 校外で保護者が受けるサポートの状況 <日本>

アメリカ：

一方、アメリカでは、図14に示すように、リソースルーム及び特殊学級の生徒の保護者がサポートを受けていると答えた教師が多かった。その内訳は、親の会からが最も多く、特殊教育センターから、病院から、そして大学からであった。

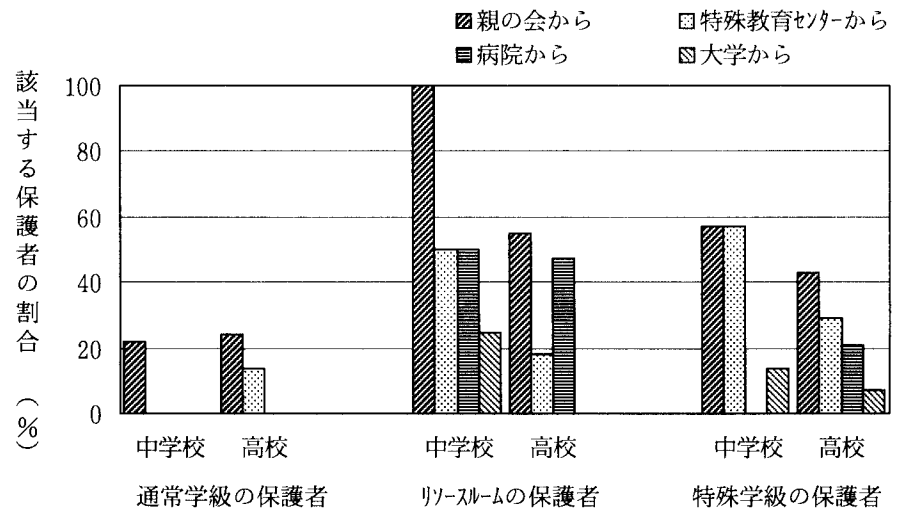


図14 校外で保護者が受けるサポートの状況 <アメリカ>

以上のことから、中学校と高等学校、及び、通常学級、通級指導教室（アメリカでは、リソースルーム）、特殊学級を問わず、生徒、教師、保護者をも問わず、日本と比べてアメリカでは、校内で受けるサポートが比較的多くなっていることが分かる。

ただ、このような校外でのサポートの状況は、アメリカのほうが多いものの、校内におけるサポートの状況と比べると、日米での差はかなり少なかった。

3.2.3. 教師の学級別の指導経験

日本：

図15によると、中学校では、通常学級の教員の内、通級指導教室の経験者が5%、特殊学級の経験者

が28%、通級指導教室の教員の内、通常学級の経験者が100%、特殊学級の経験者が58%、さらに、特殊学級の教員の内、通常学級の経験者が100%、通級指導教室の経験者が6%であった。

次に、高等学校では、教員の内、通級指導教室の経験者が0.5%、特殊学級の経験者が3%であった（日本には、高等学校には特殊学級はないので、いずれも、小学校か中学校での特殊学級の経験であろう）。

アメリカ：

図16によると、通常学級の教員の内、リソースルームの経験者が0%、特殊学級の経験者が7%、リソースルームの教員の内、通常学級の経験者が88%、特殊学級の経験者が63%、さらに、特殊学級の教員の内、通常学級の経験者が50%、リソースルームの経験者が50%であった。

次に、高等学校では、通常学級の教員の内、リソースルームの経験者が4%、特殊学級の経験者が4%、リソースルームの教員の内、通常学級の経験者が83%、特殊学級の経験者が75%、さらに、特殊学級の教員の内、通常学級の経験者が63%、リソースルームの経験者が31%であった。

以上のことから、中学校においては、日米共に、通常学級の教員で他の学級を経験したものは非常に少なく、逆に、通級指導教室（リソースルーム）や特殊学級の教員の、他の学級での指導経験がかなり高くなっていることが分かる。また、そのような傾向は、アメリカの高等学校でも同様であることが分かった。その一方で、中学校と高等学校共に、アメリカでは日本と比べて、特殊学級の教員のリソースルーム経験者がかなり高くなっているのが特徴的である。

3.2.4. 教師の受けた現職教育（通常教育、特殊教育）

3.2.4.1. 通常教育の現職教育

日本：

図17, 18に示すように、中学校では、通常学級の教員は55%、通級指導教室の教員は92%、特殊学級

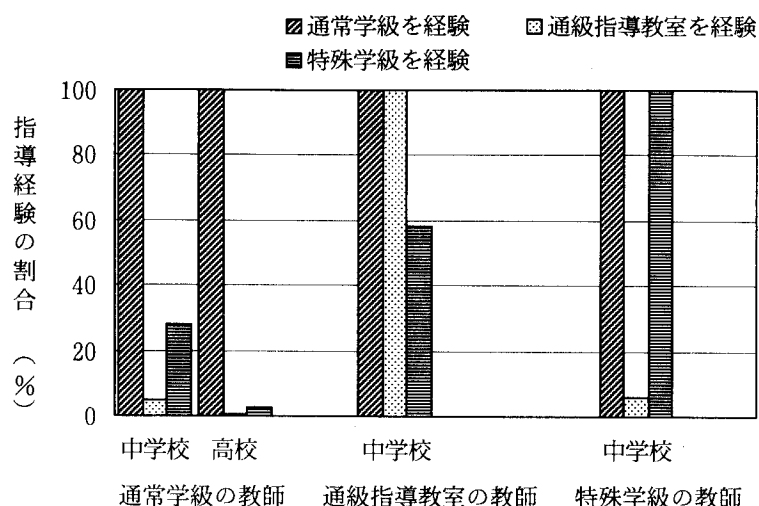


図15 教師の学級種別の指導経験 <日本>

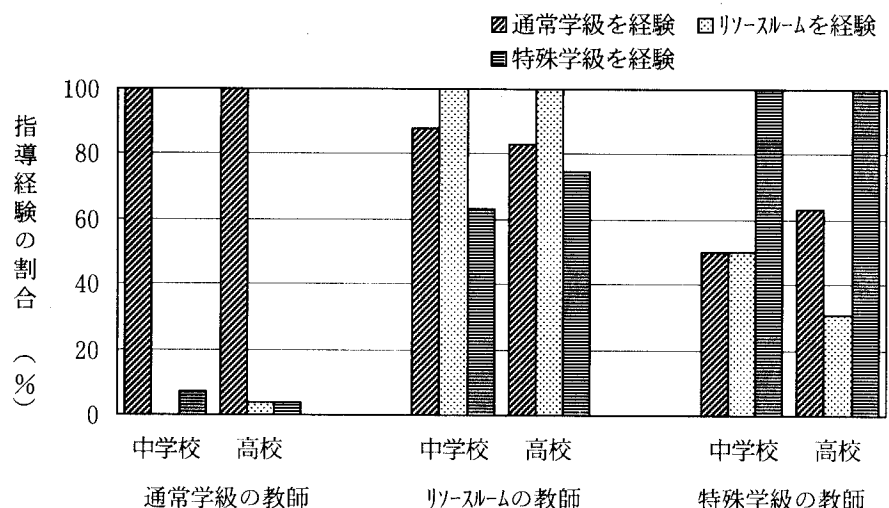


図16 教師の学級種別の指導経験 <アメリカ>

の教員は81%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が48%、通級指導教室が58%、特殊学級が34%であった。一方、高等学校では、教員の66%がこれまでに受けたと答え、昨年に受けた教員は30%であった。

アメリカ：

これに対して、アメリカでは、中学校では、通常学級の教員は100%、リソースルームの教員は100%、特殊学級の教員は83%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が71%、リソースルームが63%、特殊学級が58%であった。一方、高等学校では、通常学級の教員は96%、リソースルームの教員は100%、特殊学級の教員は94%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が86%、リソースルームが42%、特殊学級が44%であった。

このことから、中学校と高等学校、学級の種別、受けた時期（これまでか、昨年か）に関わらず、アメリカのほうが多くの教員が現職教育を受けていることが分かる。特に、通常学級の教員については、中学校と高等学校共に、2倍前後の割合で教員がこれまであるいは昨年に現職教育を受けていることが分かる。

3.2.4.2. 特殊教育の現職教育

日本：

図19, 20に示すように、中学校では、通常学級の教員は29%、通級指導教室の教員は92%、特殊学級の教員は85%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が11%、通級指導教室が75%、特殊学級が53%であった。一方、高等学校では、教員の22%がこれまでに受けたと答え、昨年に受けた教員は4%であった。

アメリカ：

これに対して、アメリカでは、中学校では、通常学級の教員は79%、リソースルームの教員は100%、

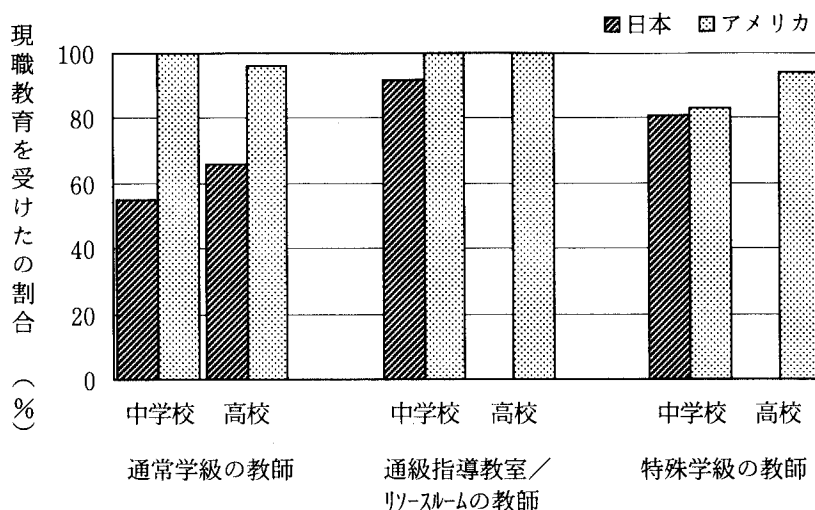


図17 教師がこれまでに受けた現職教育（通常教育）＜日米＞

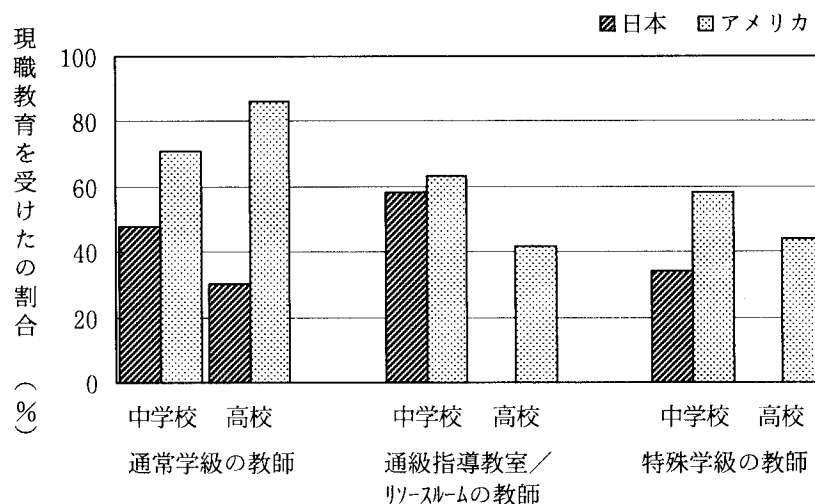


図18 教師が昨年受けた現職教育（通常教育）＜日米＞

特殊学級の教員は92%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が50%、リソースルームが75%、特殊学級が67%であった。一方、高等学校では、通常学級の教員は63%、リソースルームの教員は100%、特殊学級の教員は94%が、これまでに受けていると答え、昨年に受けた教員は、通常学級が25%、リソースルームが67%、特殊学級が94%であった。

このことから、中学校と高等学校、学級の種別、受けた時期（これまでか、昨年か）に関わらず、アメリカのほうが多くの教員が現職教育を受けていることが分かる。特に、通常学級の教員については、中学校と高等学校共に、これまでに受けた割合では3倍ほどの差であり、昨年には5～6倍の差になっている。

以上のことから、通常教育と特

殊教育共に、中学校と高等学校、学級の種別、受けた時期（これまでか、昨年か）に関わらず、アメリカのほうが多くの教員が現職教育を受けていることが分かる。特に、通常学級の教員に差が大きく、アメリカでは、通常学級の教員の特殊教育に関する現職教育を受ける割合がかなり高くなっていることが分かった。

3.2.5. 学習障害のある生徒の指導に対する教師の気持ち

3.2.5.1. 好意的な気持ち

日本：

図21に示すように、学習障害のある生徒の指導に好意的な気持ちを持っていると答えた教師の割合は、中学校では、通常学級の教員が28%、通級指導教室の教員が50%、特殊学級の教員が47%であった。

アメリカ：

一方、高等学校では、5%であった。これに対して、アメリカでは、中学校では、通常学級の教員が79%、リソースルームの教員が61%、特殊学級の教員が100%であった。一方、高等学校では、通常学級の教員が88%、リソースルームの教員が100%、特殊学級の教員が100%であった。

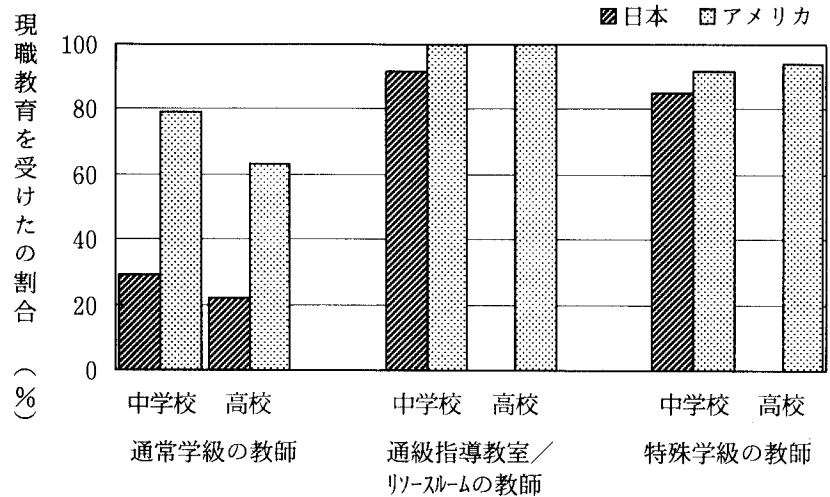


図19 教師がこれまでに受けた現職教育（特殊教育）＜日米＞

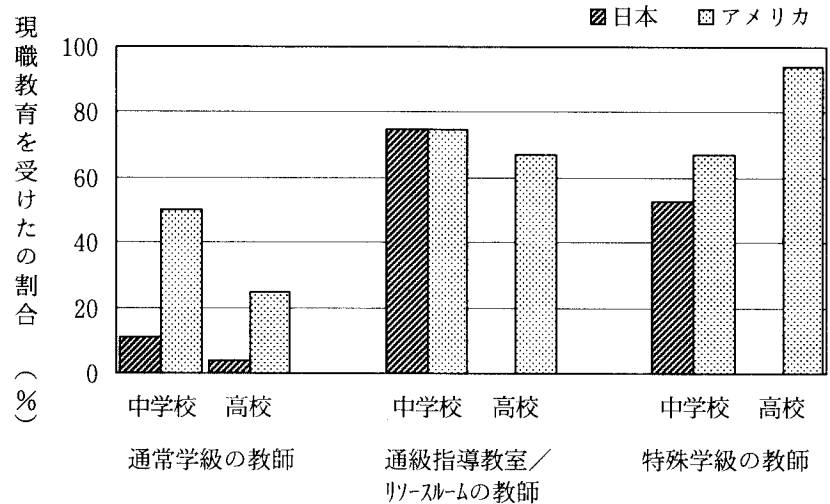


図20 教師が昨年受けた現職教育（特殊教育）＜日米＞

このように、アメリカでは日本と比べて、中学校と高等学校を問わず、また、学級の種別を問わず、学習障害のある生徒の指導に好意的な気持ちを示す割合がかなり高くなっていることが分かる。特に、その差は通常学級において特に大きく、中学校では約3倍近く、高等学校では17倍ほどの差になっている。

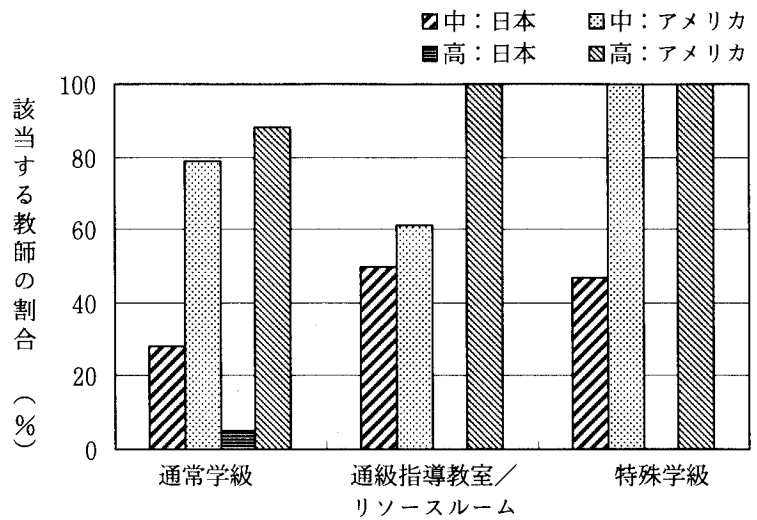


図21 LD指導に好意的と答えた教師の割合 <日米>

3.2.5.2. 指導に困難を感じる

日本：

逆に、学習障害のある生徒の指導に困難を持っていると答えた教師の割合は、日本では、図22に示すように、中学校では、通常学級の教員が66%、通級指導教室の教員が67%、特殊学級の教員が60%であった。このように、学級の種別によらず6割から7割の教員が、困難を持っていることが分かる。一方、高等学校では、36%であった。

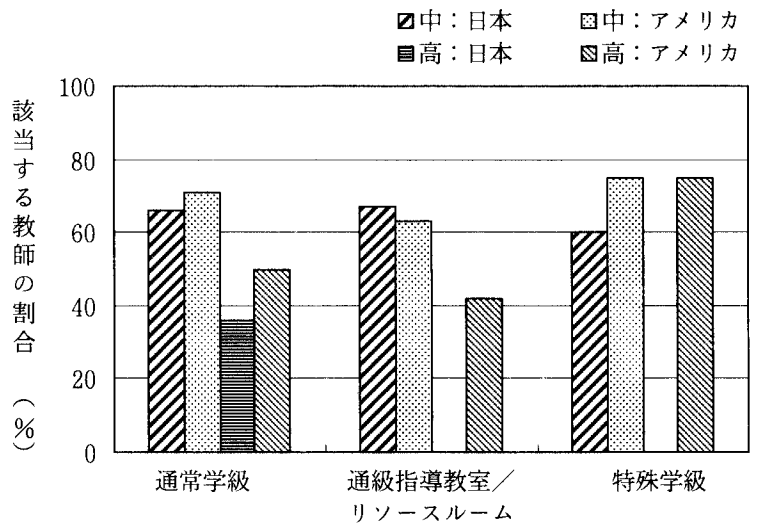


図22 LD指導に困難があると答えた教師の割合 <日米>

アメリカ：

これに対して、アメリカでは、中学校では、通常学級の教員が71%、リソースルームの教員が63%、特殊学級の教員が75%であった。このように、7割前後の教員が困難を示していることが分かる。一方、高等学校では、通常学級の教員が50%、リソースルームの教員が42%、特殊学級の教員が75%であった。

このように、中学校では、学級を問わず日米で大きな差はなく、6割から7割程度の教員が困難を示していることが分かる。一方、高等学校については、通常学級で、日本よりもアメリカでやや高くなっていることが分かる。

以上のことから、学習障害のある生徒の指導において困難を示す割合については、日米での差は少ないものの、逆に、好意的な気持ちを持っている割合は、中学校と高等学校、あるいは学級の種別に関わらず、アメリカでかなり高くなっていることが分かる。

3.2.6. 指導上の困難の内容

日本：

図23に示すように、中学校では、通常学級の教員は、教科（アカデミックスキル）の指導と個別の指

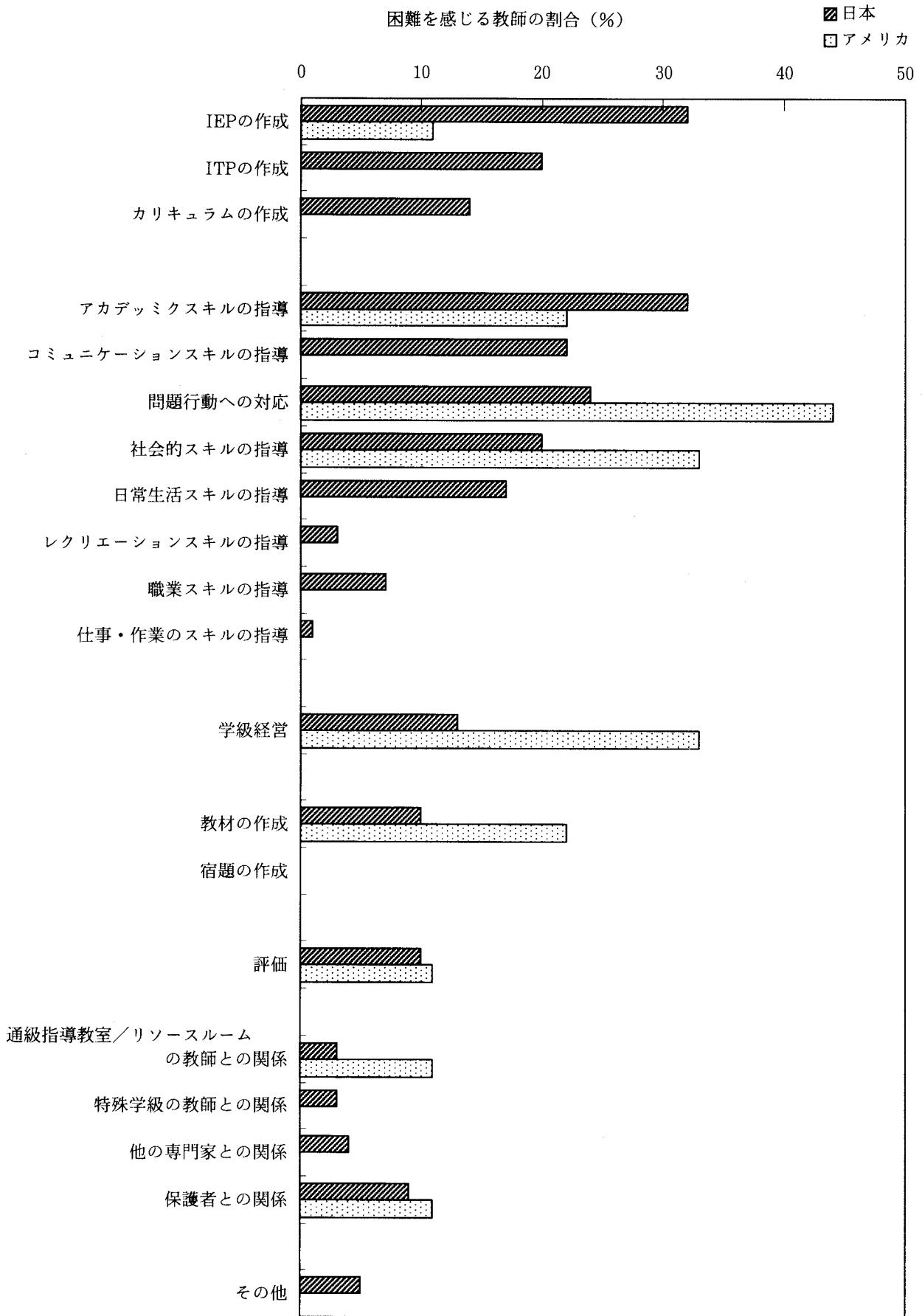


図 23 通常学級の教師が指導上で困難を感じる内容（中学校）＜日米＞

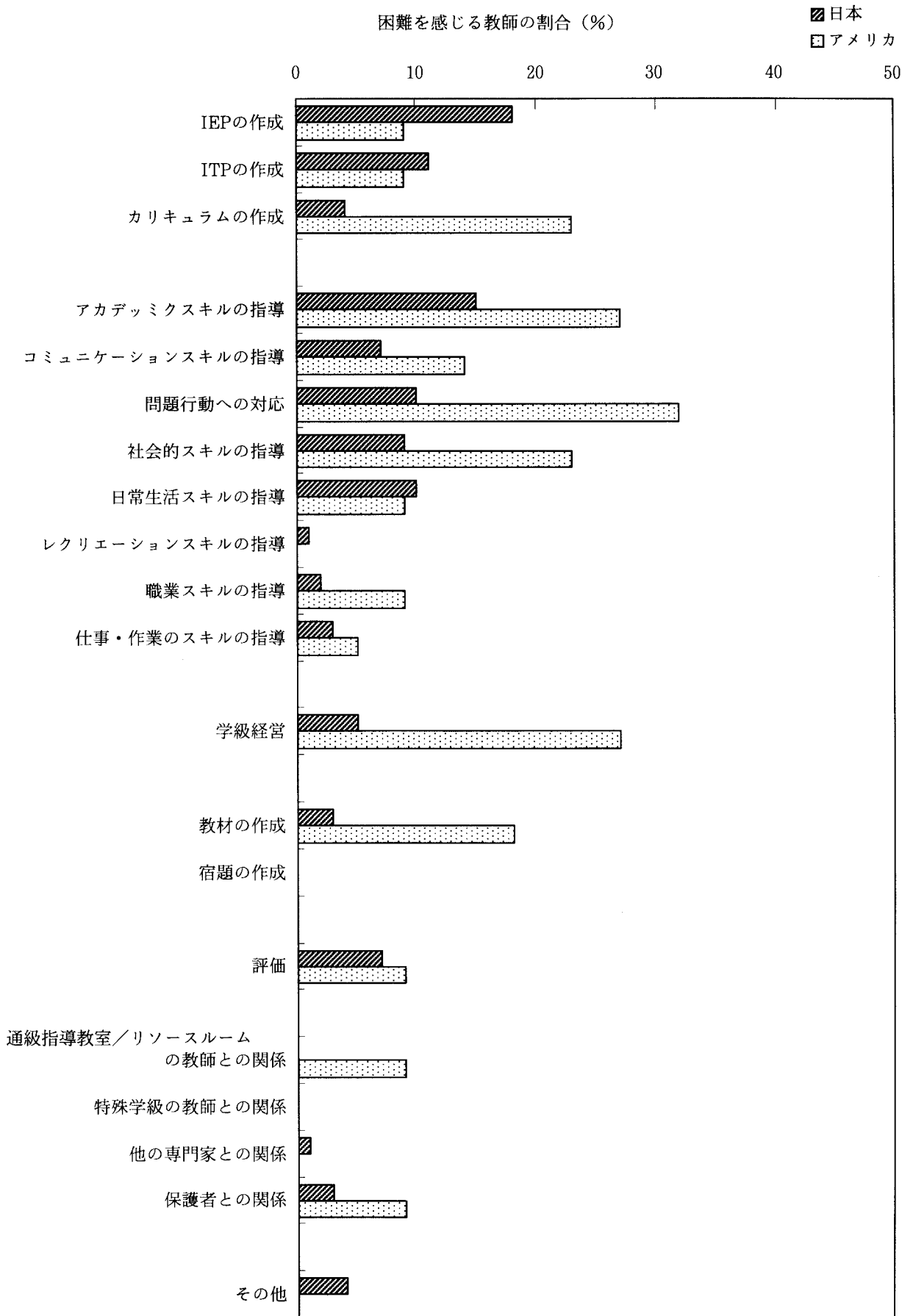


図 24 通常学級の教師が指導上で困難を感じる内容（高等学校）＜日米＞

導計画（IEP）の作成に困難を感じる割合が最も高く、問題行動への対応、コミュニケーションスキルの指導、社会的スキルの指導が続く。また、進学や就労に向けての個別移行計画（ITP）の作成にも困難を感じる割合が高くなっている。

一方、高等学校では、図24に示すように、個別の指導計画（IEP）の作成が最も高く、教科指導が続く。

アメリカ：

問題行動への対応に困難を感じる割合が最も高く、社会的スキルの指導や学級経営が続く。逆に、IEPやITPの作成に困難を感じる割合は少ない。

一方、高等学校では、問題行動への対応が最も高く、次に、学級経営とアカデミックスキルの指導が続く、さらにカリキュラムの作成と社会的スキルの指導が続いている。

以上のことから、日本における特徴は、中学校と高等学校共に、個別の指導計画（IEP）の作成やアカデミックスキルの作成に困難を感じると答えた割合が最も高くなっていることである。これに対して、アメリカにおける特徴は、中学校と高等学校共に問題行動への対応に困難を感じると答えた割合が最も高くなっていることと、学級経営に困難を感じると答えた割合がそれに次ぐほど高くなっていることである。学習障害のある生徒への指導について困難を示す割合は日米でそれほどの差はないものの、このように、困難を感じる内容については、日米で大きく異なっていることが分かった。

3.2.7. 自由記述

日 本：

<中学校の通常学級の教員>

26名からの記述があった。最も多かったのは、教員・保護者・本人の理解推進の必要性、学習障害かどうかの判断の難しさ、実際の指導上の問題点で、それぞれ5名ずついた。その他には、指導体制の整備、研修・学習会・情報提供の必要性、通常の学級でのサポートに対する考え方、が続き、学級に学習障害の生徒がいない（ので答えられない）や、アンケート用紙の質問項目等についての記述もあった。

<中学校の通級指導教室の教員>

3名からの記述があった。学習障害かどうかの判断の難しさ、支援体制の整備の必要性、指導法の工夫の必要性に関するものであった。

<中学校の特殊学級の教員>

7名からの記述があった。指導の工夫や学習の場についての記述が2名ずつあり、その他では、教員の理解推進、保護者の理解推進、市としての判断システムの整備の必要性がそれぞれ1名ずつあった。

<高等学校の教員>

34名からの記述があった。最も多かったのは、教員への理解推進や研修で6名で、学習障害かどうかの判断についてが4名、学習障害のある生徒への教育についての思い、指導方法の工夫の必要性等が3名ずつ、保護者や親の会との連携の必要性が2名、物理的環境の整備の必要性、統合教育のさらなる展開、支援体制の整備の必要性、日本の取り組みについての感想、教職についての思いが1名ずつあった。また、指導経験がないので答えられない（答えにくい）が5名や、アンケート用紙の質問項目等についての記述が7名あった。その中には、このアンケート調査自体が私たち（高等学校の教員）には適切ではない、普

通高校なので回答できないところがあった、というような記述もあった。

<校長の自由記述との比較>

校長の自由記述と同じように、中学校では、通常学級、通級指導教室、特殊学級の教員共に、現状の認識や今後の課題が記述されたが、高等学校では、そのような回答とともに、アンケート調査そのものへの意味や高等学校への調査の適切性を問う回答が見られた。

アメリカ：

<中学校の通常学級の教員>

私のクラスには、特別な教育的ニーズにある子どもがいるが、特殊学級がもっとたくさん欲しいと思う。様々なニーズのある子どもがいるのに35~40人の学級では指導困難である。もっと少人数にするべきだ。

通常学級の教師はリソースルーム教師ともしっかり話し合い時間を持つべきだ。

学校長の方針で校内の学級のクラスサイズを減らしたら、特殊学級の生徒がその教師と一緒にサイエンスの授業に参加するようになった。このように、クラスサイズは大きな意味を持つ。

<中学校の通級指導教室の教員>

注意や集中の困難な子どもへの指導は難しい。

個々の生徒は、もっとニーズに即して指導されなければならない。

<中学校の特殊学級の教員>

私は、教師になって20年になるが、いまだに、どうしたらよりよく彼らを指導できるかをいつも考えている。

私が特殊教育教員の資格を得た頃は、通常学級の資格や経験を求められたが、いまでは、そのようなことは求められなくなった。（このような現状では）通常学級やリソースルームの教師からのサポート（連携）は難しいだろう。

個々の生徒は、もっとニーズに即して指導されなければならない。

<高等学校の通常学級の教員>

生徒にはメインストリームが必要であるということはしばしば問題である。それは、ローアチーブの生徒にとっては、通常学級での指導は辛いであろうから。

通常の学級の中だけの指導では、個別的な指導が十分できるとは限らない。

<高等学校の通級指導教室の教員>

特別な教育的ニーズのある子どもがいる通常学級の教師は、そのような学級経営についてエキストラワークであるとしてしばしば怒る。

<高等学校の特殊学級の教員>

子どもの教育について家庭との考え方や接し方の違いに、指導上難しさを感じる。

4. 考 察

4.1. 教師が考える校内及び校外でのサポートの状況

校内でのサポートの状況については、通常学級、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）、特殊学級のいずれの教師も、学習障害のある生徒、その教師、その保護者共に、他の学級（教室）やスクールサイコロジストからサポートを受けていると答えた割合が、日本に比べてアメリカで特に高かった。また、日本では、中学校でのそのようなサポートは、高等学校ではさらに少なくなっているが、アメリカでは、中学校と同様に高等学校でも高い割合であった。

校外でのサポートの状況については、校内でのサポートと同様に、通常学級、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）、特殊学級のいずれの教師も、学習障害のある生徒、その教師、その保護者共に、校外の様々な機関等からサポートを受けていると答えた割合も、日本に比べてアメリカで特に高かった。また、校内でのサポートと同様に、日本では、中学校でのそのようなサポートは、高等学校ではさらに少なくなっているが、アメリカでは、中学校と同様に高等学校でも同様の高い回答であった。

以上のことから、今後、通常学級における学習障害のある生徒への教育システムを整備していく日本としては、学習障害のある生徒が在籍する学級担任が一人でサポートしていくのではなく、校内の様々な人材や学級（教室）をうまく活用していくようなシステム作りが求められることが示唆される。また、その様な校内でのサポートと共に、校外の様々なリソースを有効に活用していくことも大切であろう。

さらには、中学校と高等学校との間の日米間の差として、日本では、高等学校には特殊学級や通級指導教室が設置されていない現状が大きく反映された結果と思われる。しかし、アメリカでは、高等学校にも中学校と同様の特殊教育システムが導入されており、実際この調査から、中学校と同様に高等学校においても校内及び校外からの様々なサポートを受けていることが明らかになった。このことは、今後近い将来、日本において、後期中等教育における学習障害等、軽度の障害のある生徒への教育の在り様を考えていく際、少なくとも上述のサポートの面からは、中学校段階の現状の特殊教育のシステム、すなわち、特殊学級と通級指導教室のシステムを高等学校に導入していくことが早急に求められるであろう。

4.2. 教師の学級別指導経験

中学校では、通常学級の教員で他の学級を経験したことのある者は非常に少なく、逆に、通級指導教室（アメリカではリソースルーム）や特殊学級の教員で他の学級を経験したことのある者はかなり高くなっていることは日米で共通で、この様な傾向はアメリカの高等学校でも同様であることが分かった。ただ、アメリカでは、中学校と高等学校共に特殊学級教員のリソースルームの経験がかなり高くなっているが、これは、日本における通級指導教室の設置率と比べて、アメリカにおけるリソースルームの設置率がかなり高いことも大きな要因の一つであろう。

4.3. 教師の受けた現職教育

通常教育と特殊教育共に、また、中学校と高等学校、学級の種別、受けた時期（これまでか、昨年か）に限らず、アメリカの教員の方がより多く現職教育を受けていると答えた。その中でも、アメリカでは、日本と比べて、通常学級の教員が特殊教育の現職教育を受けている割合が特に高くなっていることが特徴的であった。このことについては、通常学級の中における特殊教育のサービスが進んでいるアメリカにとっては、当然の結果であろう。このことは今後、日本においても、通常学級において特殊教育を展開していく際に準備しなければならない重要な点の一つであろう。なお、現職教育の内容（カリキュラム）や形態（理論的なものか演習か）については、今回の調査でデータを集めているので分析を進めたい。

4.4. 学習障害のある生徒への指導に対する教師の気持ち

学習障害のある生徒への指導に困難を感じている教師は、中学校と高等学校の別や学級種別により多少の差はあるものの、日米で同じように高い数値であった。一方、指導に好意的な気持ちを示す教師は、日本ではかなり低かったのに対して、アメリカでは困難を示すと答えた教師の割合と同じくらいに高かった。すなわち、アメリカでは、指導は困難であると感じているものの、でも指導には好意的であるのに対して、日本では、指導は困難であり、指導そのものについても好意的ではないという結果であることが分かった。

この様な差は、中学校・高等学校を問わず、学習障害のある生徒への教育システムが確立しているアメリカと、いくつかの中学校には特殊学級や通級指導教室があるものの、高等学校における特殊教育システムがない日本の制度上の差が明確に現れたものと考えることができ、現状では、致し方ない結果であると考えて良いであろう。

次に、困難を示す内容であるが、問題行動への対応に困難を感じる割合は日米でほぼ同様に高かったが、日本では、個別の指導計画（IEP）や個別移行計画（ITP）の作成が高く、アメリカでは学級経営に困難を感じる割合が高かった。この様に、日米共に、学習障害のある生徒への指導には、同じように高い割合で困難を感じているものの、その感じる内容については部分的には異なっていることが分かった。

また、好意的に感じる理由についての調査は、今後の課題であろう。

4.5. 教師の自由記述部分の分析

日本では、特に中学校の通常学級の教員からは、教員・保護者・本人の理解推進の必要性、学習障害かどうかの判断の難しさ、実際の指導上の問題点が最も多く寄せられた。また、高等学校でも、教員への理解推進、学習障害かどうかの判断が最も多かった。このように、関係者への理解推進が先ず必要であり、学習障害かどうかの判断の難しさやどう進めたらよいかといった回答も多いのが特徴である。これに対して、アメリカでは、そのような理解推進や、学習障害かどうかの判断の難しさに関する回答はなく、特殊学級の設置の増加の必要性、クラスサイズの減少の必要性、校内での関係者間の連携の必要性、ニーズに即した指導の必要性と難しさ、現行の特殊教育教員資格制度の問題点、インクルーシブ教育の問題等、現

行の特殊教育システムの問題点の指摘や、実際の指導上の課題についての解答が多いのが特徴である。このような日米の差については、学習障害へのサポートをこれから本格的に開始しようと考えている日本にとっては、先ず理解推進や学習障害かどうかの判断に関心が集まるのは自然であり、既に長い歴史のあるアメリカでは、そのような段階から、次の問題へと関心が移ってきていることが読み取れる結果であろう。アメリカでも、学習障害へのサポートが始まった頃は、やはり日本の現在のこの様な課題が多く見られたのかどうか明らかにする必要がある。

4.6. 本研究の研究方法上の問題

このアンケート調査は、当初から、日米比較を想定して進めたが、アメリカにおける調査については、筆者が在外研究員としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) に滞在した10か月の間にデザインの検討から、UCLAの倫理委員会での許可、質問紙の作成発送回収、さらには分析の一部までを目指したため、その調査規模は日本側と比べると小さなものであった。そのため、日米比較とはいうものの、実際には日本（正確には、日本の3大都市圏）の状況を明らかにするためにアメリカ（ロサンゼルス地区）のデータを参考にした、といったところであろう。しかし、日本の現状と課題を明らかにするという目的は、ある程度は達することができたものとする。

4.7. 今後の課題

本調査では、学習障害のある生徒、その担任、その生徒の保護者が、校内や校外で受けているサポートの状況について、特にどこからのサポートかという観点から明らかにした。今後は、その具体的な内容やその成果、さらには満足度等についての調査と分析が必要であろう。

次に、特殊教育及び通常教育に関しての現職教育の有無について明らかにしたが、本調査でデータ収集した現職教育の内容（プログラム）や形態（講義か演習か等）の分析を進める必要がある。これにより、日本での特に通常学級の担任向けの現職教育プログラムの作成に示唆を与えるだろう。

また、本調査では、UCLAの倫理委員会での審査の意向等により、学習障害のある生徒やその保護者への直接的なアンケート調査ではなく、担任が考える生徒やその保護者へのサポートの状況について調査するという方策を採った。教師が考えている（把握している）状況ということで、それはそれなりに意味のあることであるが、その結果と、生徒やその保護者への直接的なアンケート調査の結果との相違について見てみる必要がある。

今回は、日本では3大都市圏、アメリカではロサンゼルス地区といういずれも大都市を調査対象にしたが、都市圏ではない地域や、校外の地域での調査もあわせて必要であり、また、それらの結果を総括的に検討することが必要である。

最後になったが、アメリカでPL94-142が示された1975年当時の、学習障害へのサポートが本格的に始まった頃の本調査に関わる状況についての把握が、文献や聞き取り調査などから可能であれば、その結果と本調査の日本側の結果との関連について検討してみることも面白いであろう。

文 献

<本研究に直接関わるもの>

Tsuge M. (1998) Research on Educational Support System for Adolescents with Learning Difficulties in California, USA. Visiting Report: University of California, Los Angeles (UCLA). (non published)

柘植雅義・Keogh B.K. (1998) 南カリフォルニアの中学校・高校における学習困難への対応に関する調査. 日本LD学会第7回大会発表論文集, 110-113.

柘植雅義・Keogh B.K. (2000) 南カリフォルニアの中学校・高等学校における学習障害への対応に関する調査 -通常学級・リソースルーム・特殊学級の教師及び校長に対する質問紙調査を通して-. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 27, 101-112.

柘植雅義 (2000a) 東京圏・大阪圏・名古屋圏の中学校・高等学校における学習困難への対応に関する調査. 日本LD学会第9回大会発表論文集.

柘植雅義 (2001a) 日本3大都市圏の中学校・高等学校における学習障害への対応に関する調査 -通常の学級・通級指導教室・特殊学級の教員及び校長に対する質問紙調査を通して-. 科研報告書 (中間).

<その他の学習障害関係>

柘植雅義 (1997a) "Journal of Learning Disabilities" に関する研究動向 -1968(創刊), 1978, 1988, 1995年の比較-. 国立特殊教育総合研究所 研究紀要, 24, 117-126.

柘植雅義 (1997b) 学習困難による不登校児童に対する登校行動の形成と学習困難の改善. 国立特殊教育総合研究所 教育相談年報, 17, 21-30.

柘植雅義・人羅善次郎・清永直志・松原弘治 (1999) ビギナーのための学習障害(LD)ハンドブック -通常の学級を担当する教師のために-. 科学研究費補助金報告書.

柘植雅義 (1999a) カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 滞在報告 -学習障害への特殊教育サービスの現状と課題-. 国立特殊教育総合研究所 世界の特殊教育.

Tsuge, M & Keogh, B.K. (1999) Special Education Services for Students with Learning Disabilities in Japan and the U.S.A.: A Comparison. YAI / National Institute for People with Disabilities, 20th International Conference, New York.

柘植雅義 (1999b) 支援の具体的な方略とこれからの方向性. 「いま学校では 2 : レクチャールーム LDの子への支援」. 発達遅れと教育, 5月号. 日本文化科学社.

柘植雅義 (1999c) 日本における学校教育とLD ~これまでの10年 これからの10年~. LD (学習障害) -研究と実践- (日本LD学会誌), 8, 1, 2-8.

柘植雅義 & Keogh B.K. (1999) 学習障害に関する学術誌における研究動向の日米比較-日米4誌の1995年の比較を通して-. 日本特殊教育学会第37回大会発表論文集.

柘植雅義 (1999d) 南カリフォルニアのコミュニティカレッジ・大学における学習障害のある学生へのサポートの状況. 日本LD学会第8回発表論文集.

柘植雅義 (2000b) 通常の学級で学習に困難を示す児童生徒の教育相談 -最近の7事例から-. 国立特殊教育総合研究所教育相談年報, 20, 11-18.

柘植雅義 (2000c) 南カリフォルニアの中学校・高等学校における学習障害への対応に関する調査 -通常学級・リソースルーム・特殊学級の教師及び校長に対する質問紙調査を通して-. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 27, 101-112.

Tsuge M. (2000) Research Trends in Major Journals for Learning Disabilities in Japan and U.S.A. CEC Special Education Congress 2000, April 4-5, Vancouver, Canada.

柘植雅義 (2000d) インクルージョン研究と学習障害研究の最前線. 国立特殊教育総合研究所 世界の特殊教育.

柘植雅義 (2000e) 大学における対応. 山口薫編著, 学習障害・学習困難への教育的対応 -日本の学校教育改革を目指して-. 文教資料協会.

柘植雅義 (2000f) 10年後の日本の小学校 -学習上特別なニーズのある子どもは-. 神奈川LD協会機関紙, 21, 1.

柘植雅義 (2000g) 日本の2学会の年次大会発表論文集における学習障害に関する研究動向 -創刊から1999年までの動向-. 日本特殊教育学会第38回大会発表論文集.

柘植雅義・脇岡憲吾・中村紀夫・松原弘治 (2001) ビギナーのための学習障害(LD)ハンドブック No.2 -特殊学級を担当する教師のために-. 科学研究費補助金報告書.

Tsuge M.(2001) Learning Disabilities in Japan. Hallahan D.P. & Keogh B.K. (Eds), Research and Global Perspectives in Learning Disabilities: Essays in Honor of William M. Cruickshank. Lawrence Erlbaum Associates.

Tsuge M.(2001) Questionnaire Survey on Educational Supports for Learning Disabilities in Japan and USA. YAI National Institute of People with Disabilities, 22nd International conference, New York.

※ 近年に発表した研究成果のうち、学習障害関係でファーストオーサーのものを掲載した。

資料：アンケート用紙

- 校長用（中学校用、高等学校用）
- 通常の学級の教員用（中学校用、高等学校用）
- 特殊教育の教員用（中学校用、高等学校用）

学校長（中学校）への質問紙

この調査は、学習に困難を示す生徒に焦点があてられています。その中には、学習障害（LD）といわれる生徒も含まれます。以下、このような生徒を「学習障害のある生徒」と言うことにします。

1. 学校の規模と人員

1.1. いくつの学級（教室）がありますか？

通常学級 _____ 通級指導教室 _____ 特殊学級 _____ 合計 _____

1.2. 何人の生徒がいますか？

通常学級 _____ 通級指導教室 _____ 特殊学級 _____ 合計 _____

1.3. 生徒の学年は _____ 年生から _____ 年生

1.4. 生徒の民族の分布はどの様ですか？

日本人	_____ %
日本人以外のアジア系	_____ %
白人	_____ %
黒人	_____ %
ヒスパニック	_____ %
その他（ _____ ）	_____ %
合計	100 %

1.5. 教員数は何人ですか？

通常の学級（ホームルーム）を持ち、教科を教えている教師	_____人
通常の学級（ホームルーム）を持たず、教科を教えている教師	_____人
巡回教師	_____人
通級指導教室の教師	_____人
特殊学級の教師	_____人
その他（ _____ ）	_____人
合計	_____人

1.6. 他の職員はいますか？（はい、いいえ）

もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する（ ）をチェックし、常（常勤）か非（非常勤）を○で囲んで下さい。

() 学級の補助教師	(常、非)
() 保健室の教師／看護婦	(常、非)
() 医者（校医）	(常、非)
() 心理学者／スクールサイコロジスト	(常、非)
() 大学教授／研究者	(常、非)
() ボランティア	(常、非)
() 親	(常、非)
() その他	(常、非)

2. インクルージョンに関する学校の方針

※インクルージョン（inclusion）とは、障害があつたり特別な配慮が必要であつたりする生徒を、通常学級の場で必要なサポートをしながら指導を行うこと、とします。（詳しくは、国連決議（1993）、サマランカ宣言（1994）などを参照）

2.1. インクルージョンという教育の理念を知っていますか？

（はい、いいえ）

「はい」なら次の2.2.へ、「いいえ」なら2.3.へ進んで下さい。

2.2. 学習障害のある生徒のインクルージョンについての学校方針はどのようですか？

該当する () をチェックして下さい。

- () フルインクルージョン (通常学級のみで指導)
- () 部分的インクルージョン (通常学級に在籍しながら通級指導教室などを活用)
- () 分離プログラム (特殊学級のみ)
- () 分離プログラムだが交流教育を行う (部分的に通常学級で指導)

インクルージョンについての学校方針は何によりますか？

- () 校長の考え
- () 生徒のニーズ
- () 親の希望
- () 教師の考え
- () 教師の指導力
- () その他 ()

2.3. 何人の学習障害のある生徒が、個別の指導計画のもとで指導を受けていますか？ _____人

それは、学習障害のある生徒の内の何%に当たりますか？ _____%

2.4. 何人の学習障害のある生徒が、通常の学級にいますか？ _____人

2.5. 通常の学級にいる何人の生徒が通級指導教室を利用していますか？ _____人

2.6. 何人の学習障害のある生徒が特殊学級にいますか？ _____人

3. 特殊教育のサービス

3.1. 学習障害のある生徒が指導を受けられる通級指導教室がありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、
いくつありますか？ _____

何人の生徒が通級指導室を利用していますか？ _____人

通級指導教室には他の職員がいますか？ (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する () をチェックし、常 (常勤) か非 (非常勤) を○で囲んで下さい。

- () 学級の補助教師 (常、非)
- () 特殊学級の教師 (常、非)
- () 心理学者/スクールサイコロジスト (常、非)
- () 親 (常、非)
- () ボランティア (常、非)
- () その他 (常、非)

3.2. 学習障害のある生徒が指導を受けられる特殊学級がありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、
いくつありますか？ _____

何人の生徒が特殊学級を利用していますか？ _____人

特殊学級には他の職員がいますか？ (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する () をチェックし、常 (常勤) か非 (非常勤) を○で囲んで下さい。

- () 学級の補助教師 (常、非)
- () 通級指導教室の教師 (常、非)
- () 心理学者/スクールサイコロジスト (常、非)
- () 親 (常、非)
- () ボランティア (常、非)
- () その他 (常、非)

3.3. 学習障害のある生徒のための移行教育プログラムはありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、何に向けての移行教育プログラムですか？

該当する()をチェックして下さい。

- () 通常学級に向けて
- () 通級指導教室に向けて
- () 高校に向けて
- () 専門学校に向けて
- () 他のタイプの学校に向けて
- () 働くこと(就労)に向けて
- () その他()

その内容は何か？

- () 社会的スキルの訓練プログラム
- () 日常生活スキルの訓練プログラム
- () 余暇/レジャーのプログラム
- () 職業訓練プログラム
- () 障害のある生徒のためのプログラム
- () 特殊学級に在籍する生徒のためのプログラム
- () その他()

3.4. 他の特殊教育サービスはありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何か？

該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- () 言語治療の専門家(言語療法士/言語治療士等) (常、非)
- () 作業療法士 (常、非)
- () 生徒のためのカウンセリング (常、非)
- () 職業訓練 (常、非)
- () 作業学習 (常、非)
- () 家庭のサポート (常、非)
- () その他() (常、非)

3.5. 学習障害のある生徒の昨年の進路はどのようなでしたか？

進学	_____ %	高校	_____ %
		専門学校	_____ %
		学習障害のある生徒のための学校	_____ %
		通信教育	_____ %
		他のタイプの学校	_____ %
就労	_____ %	ビジネス	_____ %
		サービス	_____ %
		製造	_____ %
		看護(福祉)	_____ %
		教育	_____ %
		農業/漁業	_____ %
		その他()	_____ %
その他()	_____ %		
合計	100 %	合計	100 %

3.6. 校内に通常の教育に関する現職教育はありますか？ (はい、いいえ)

3.7. 校内に特殊教育に関する現職教育はありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その講師は誰ですか？

- () 校長
- () 通常学級の教師
- () 通級教室の教師
- () 特殊学級の教師
- () 保健室の教師(養護教諭)
- () スクールサイコロジスト
- () 校内の他の職員(職種:)
- () 校外の人(専門家等)(職種:)

4. 学校周辺のリソース

4.1. 学習障害のある生徒が利用できそうな施設にはどのようなものがありますか？

該当する()をチェックして下さい。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 別の学校 | <input type="checkbox"/> 病院 |
| <input type="checkbox"/> 社会教育センター | <input type="checkbox"/> 大型ショッピングセンター |
| <input type="checkbox"/> コミュニティーセンター | <input type="checkbox"/> 小型ショッピングセンター |
| <input type="checkbox"/> 生涯学習センター | <input type="checkbox"/> レストラン |
| <input type="checkbox"/> スイミングプール | <input type="checkbox"/> 銀行 |
| <input type="checkbox"/> アスレティックルーム | <input type="checkbox"/> 鉄道の駅 |
| <input type="checkbox"/> スポーツグラウンド | <input type="checkbox"/> バス停 |
| <input type="checkbox"/> 美術館／博物館／音楽ホール | <input type="checkbox"/> 農場／牧場 |
| <input type="checkbox"/> 公園 | <input type="checkbox"/> 他の特徴的な施設() |
| <input type="checkbox"/> 大学／短期大学 | |

4.2. 特殊教育に関するリソースにはどのようなものがありますか？

- 特殊教育センター
- 教育センター
- トレーニングセンター／訓練室
- カウンセリングセンター／相談室
- 学習障害のある生徒のための学校
- 養護学校
- 大学
- 短期大学
- 病院
- 他の特徴的な施設()

5. 学習障害のある生徒へのサポートについて今後求められること

中学校段階で学習障害のある生徒へのサポートについて、今後、日本でどのようなことが求められると考えますか？特に求められると思うものを5つ選んで下さい。

- 授業の工夫
- 教材・教具の工夫
- ティームティーチングの導入や拡充
- 個別の指導計画の作成
- 特殊教育についてより専門的な知識を持った教員の配置
- 通級指導教室の拡充と充実
- 特殊学級の拡充と充実
- 校内での相談機能の充実
- 人事交流（特殊教育の教員と通常の教育の教員間）
- スクールサイコロジストの拡充や充実
- 校内での支援体制の確立や充実
- 研修の充実（通常学級の教員向け）
- 研修の充実（管理職向け）
- 小中学校の通級指導教室や特殊学級との連携
- 盲・聾・養護学校との連携
- 教育センターや特殊教育センターとの連携
- 大学等の専門機関との連携
- 民間の教育機関との連携
- 保護者との連携
- その他()

6. その他に必要なと思われる情報がありましたらお書き下さい。

ご回答いただき、ありがとうございました。

学校長（高校）への質問紙

この調査は、学習に困難を示す生徒に焦点があてられています。その中には、学習障害(LD)といわれる生徒も含まれます。以下、このような生徒を「学習障害のある生徒」と言うことにします。

1. 学校の規模と人員

1.1. いくつの学級（教室）がありますか？

通常学級 _____ 通級指導教室 _____ 特殊学級 _____ 合計 _____

1.2. 何人の生徒がいますか？

通常学級 _____ 通級指導教室 _____ 特殊学級 _____ 合計 _____

1.3. 生徒の学年は _____ 年生から _____ 年生

1.4. 生徒の民族の分布はどの様ですか？

日本人	_____ %
日本人以外のアジア系	_____ %
白人	_____ %
黒人	_____ %
ヒスパニック	_____ %
その他 (_____)	_____ %
合計	100 %

1.5. 教員数は何人ですか？

通常の学級（ホームルーム）を持ち、教科を教えている教師	_____ 人
通常の学級（ホームルーム）を持たず、教科を教えている教師	_____ 人
巡回教師	_____ 人
通級指導教室の教師	_____ 人
特殊学級の教師	_____ 人
その他 (_____)	_____ 人
合計	_____ 人

校内に、特殊教育を担当する公務分掌がありますか？ (はい、いいえ)

1.6. 他の職員はいますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する () をチェックし、常（常勤）か非（非常勤）を○で囲んで下さい。

() 学級の補助教師	(常、非)
() 保健室の教師／看護婦	(常、非)
() 医者（校医）	(常、非)
() 心理学者／スクールサイコロジスト	(常、非)
() 大学教授／研究者	(常、非)
() ボランティア	(常、非)
() 親	(常、非)
() その他	(常、非)

2. インクルージョンに関する学校の方針

※インクルージョン (inclusion) とは、障害があつたり特別な配慮が必要であつたりする生徒を、通常学級の場で必要なサポートをしながら指導を行うこと、とします。(詳しくは、国連決議(1993)、サマランカ宣言(1994)などを参照)

2.1. インクルージョンという教育の理念を知っていますか？ (はい、いいえ)

「はい」なら次の2.2.へ、「いいえ」なら2.3.へ進んで下さい。

2.2. 学習障害のある生徒のインクルージョンについての学校方針はどのようなですか？

該当する()をチェックして下さい。

- () フルインクルージョン (通常学級のみで指導)
- () 部分的インクルージョン (通常学級に在籍しながら通級指導教室などを活用)
- () 分離プログラム (特殊学級のみ)
- () 分離プログラムだが交流教育を行う (部分的に通常学級で指導)

インクルージョンについての学校方針は何によりですか？

- () 校長の考え
- () 生徒のニーズ
- () 親の希望
- () 教師の考え
- () 教師の指導力
- () その他 ()

2.3. 何人の学習障害のある生徒が、個別の指導計画のもとで指導を受けていますか？ _____人

それは、学習障害のある生徒の内の何%に当たりますか？ _____%

2.4. 何人の学習障害のある生徒が、通常の学級にいますか？ _____人

2.5. 通常の学級にいる何人の生徒が通級指導教室を利用していますか？ _____人

2.6. 何人の学習障害のある生徒が特殊学級にいますか？ _____人

3. 特殊教育のサービス

3.1. 学習障害のある生徒が指導を受けられる通級指導教室がありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、
いくつありますか？ _____

何人の生徒が通級指導教室を利用していますか？ _____人

通級指導教室には他の職員がいますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- () 学級の補助教師 (常、非)
- () 特殊学級の教師 (常、非)
- () 心理学者/スクールサイコロジスト (常、非)
- () 親 (常、非)
- () ボランティア (常、非)
- () その他 (常、非)

3.2. 学習障害のある生徒が指導を受けられる特殊学級がありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、
いくつありますか？ _____

何人の生徒が特殊学級を利用していますか？ _____人

特殊学級には他の職員がいますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは誰ですか？

該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- () 学級の補助教師 (常、非)
- () 通級指導教室の教師 (常、非)
- () 心理学者/スクールサイコロジスト (常、非)
- () 親 (常、非)
- () ボランティア (常、非)
- () その他 (常、非)

3.3. 学習障害のある生徒のための移行教育プログラムはありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、何に向けての移行教育プログラムですか？

該当する () をチェックして下さい。

- () 通常学級に向けて
- () 通級指導教室に向けて
- () 高校に向けて
- () 専門学校に向けて
- () 他のタイプの学校に向けて
- () 働くこと(就労)に向けて
- () その他 ()

その内容は何ですか？

- () 社会的スキルの訓練プログラム
- () 日常生活スキルの訓練プログラム
- () 余暇/レジャーのプログラム
- () 職業訓練プログラム
- () 障害のある生徒のためのプログラム
- () 特殊学級に在籍する生徒のためのプログラム
- () その他 ()

3.4. 他の特殊教育サービスはありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

該当する () をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- () 言語治療の専門家(言語療法士/言語治療士等) (常、非)
- () 作業療法士 (常、非)
- () 生徒のためのカウンセリング (常、非)
- () 職業訓練 (常、非)
- () 作業学習 (常、非)
- () 家庭のサポート (常、非)
- () その他 () (常、非)

3.5. 学習障害のある生徒の昨年の進路はどのようでしたか？

進学	_____ %	大学	_____ %
		短期大学	_____ %
		専門学校	_____ %
		学習障害のある生徒のための学校	_____ %
		通信教育	_____ %
		他のタイプの学校	_____ %
就労	_____ %	ビジネス	_____ %
		サービス	_____ %
		製造	_____ %
		看護(福祉)	_____ %
		教育	_____ %
		農業/漁業	_____ %
		その他 ()	_____ %
その他 ()	_____ %		_____ %
合計	100 %	合計	100 %

3.6. 校内に通常の教育に関する現職教育はありますか？ (はい、いいえ)

3.7. 校内に特殊教育に関する現職教育はありますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その講師は誰ですか？

- () 校長
- () 通常学級の教師
- () 通級指導教室の教師
- () 特殊学級の教師
- () 保健室の教師(養護教諭)
- () スクールサイコロジスト
- () 校内の他の職員(職種:)
- () 校外の人(専門家等)(職種:)

4. 学校周辺のリソース

4.1. 学習障害のある生徒が利用できそうな施設にはどのようなものがありますか？

該当する()をチェックして下さい。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 別の学校 | <input type="checkbox"/> 病院 |
| <input type="checkbox"/> 社会教育センター | <input type="checkbox"/> 大型ショッピングセンター |
| <input type="checkbox"/> コミュニティーセンター | <input type="checkbox"/> 小型ショッピングセンター |
| <input type="checkbox"/> 生涯学習センター | <input type="checkbox"/> レストラン |
| <input type="checkbox"/> スイミングプール | <input type="checkbox"/> 銀行 |
| <input type="checkbox"/> アスレティックルーム | <input type="checkbox"/> 鉄道の駅 |
| <input type="checkbox"/> スポーツグラウンド | <input type="checkbox"/> バス停 |
| <input type="checkbox"/> 美術館／博物館／音楽ホール | <input type="checkbox"/> 農場／牧場 |
| <input type="checkbox"/> 公園 | <input type="checkbox"/> 他の特徴的な施設() |
| <input type="checkbox"/> 大学／短期大学 | |

4.2. 特殊教育に関するリソースにはどんなものがありますか？

- 特殊教育センター
- 教育センター
- トレーニングセンター／訓練室
- カウンセリングセンター／相談室
- 学習障害のある生徒のための学校
- 養護学校
- 大学
- 短期大学
- 病院
- 他の特徴的な施設()

5. 学習障害のある生徒へのサポートについて今後求められること

高校段階で学習障害のある生徒へのサポートについて、今後、日本でどのようなことが求められると考えますか？特に求められると思うものを5つ選んで下さい。

- 授業の工夫
- 教材・教具の工夫
- ティームティーチングの導入や拡充
- 個別の指導計画の作成
- 特殊教育についてより専門的な知識を持った教員の配置
- 通級指導教室の設置
- 特殊学級の設置
- 校内での相談機能の充実
- 人事交流（特殊教育の教員と通常の教育の教員間）
- スクールサイコロジストの拡充や充実
- 校内での支援体制の確立
- 研修の充実（通常学級の教員向け）
- 研修の充実（管理職向け）
- 小中学校の通級指導教室や特殊学級との連携
- 盲・聾・養護学校との連携
- 教育センターや特殊教育センターとの連携
- 大学等の専門機関との連携
- 民間の教育機関との連携
- 保護者との連携
- その他()

6. その他に必要と思われる情報がありましたらお書き下さい。

[]

ご回答いただき、ありがとうございました。

通常の学級の教員（中学校）への質問紙

この調査は、学習に困難を示す生徒に焦点が当てられています。その中には、学習障害(LD)といわれる生徒も含まれます。以下、このような生徒を「学習障害のある生徒」と言うことにします。

1. 教 員

1.1. どの教科を教えていますか？

該当する（ ）をチェックして下さい。

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 国語系 | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> コンピュータ |
| <input type="checkbox"/> 数学系 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 職業教育 |
| <input type="checkbox"/> 理科系 | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 労働に関する学習 |
| <input type="checkbox"/> 社会科学系 | <input type="checkbox"/> 技術家庭科 | <input type="checkbox"/> 特殊教育（通級指導教室・特殊学級） |
| <input type="checkbox"/> その他（ | | ） |

1.2. その教室あるいは学級での学習指導以外の仕事は何ですか？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 通常学級での学習指導 | <input type="checkbox"/> カリキュラムの作成・管理など |
| <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 | |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 | |
| <input type="checkbox"/> 外国人・バイリンガル教育の担当 | <input type="checkbox"/> 職業教育・移行教育の担当 |
| <input type="checkbox"/> レクリエーション・課外活動・校外活動 | <input type="checkbox"/> 事務 |
| <input type="checkbox"/> 経理 | <input type="checkbox"/> 安全管理 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ）なし |

1.3. これまでにどの種類の学級で教えましたか？

- | | |
|--|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 通常の学級 | <input type="checkbox"/> 特殊学級 |
| <input type="checkbox"/> 学習障害のある生徒を含む通常の学級 | <input type="checkbox"/> 巡回教師 |
| <input type="checkbox"/> 通級指導教室 | <input type="checkbox"/> その他（ |

1.4. これまでに通常の教育に関する現職教育を受けましたか？

（はい、いいえ）

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する（ ）をチェックし、内（校内）か外（校外）を○で囲んで下さい。

<講義>

- | | |
|--|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教育哲学 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 指 導 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 学級経営 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての教育 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 他の教師との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 他の専門家（スクールサイコジストなど）との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 親との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 生徒や青年期の心理 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 生徒や青年期の医学 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ）内、外 |

<実習>

- | | |
|---|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 指 導 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 教材の作成 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> アセスメント・評価 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> カウンセリング | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ）内、外 |

1.5. 昨年度、通常の教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何か？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 教育哲学 (内、外)
- () 指 導 (内、外)
- () 学級経営 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家 (スクールサイコロジストなど) との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 生徒や青年期の心理 (内、外)
- () 生徒や青年期の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 指 導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () アセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.6. これまでに特殊教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何か？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家 (スクールサイコロジストなど) との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.7. 昨年度、特殊教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何か？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家 (スクールサイコロジストなど) との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- 障害のある生徒の指導 (内、外)
- 教材の作成 (内、外)
- 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- カウンセリング (内、外)
- その他 () (内、外)

2. 学 級

- 2.1. 担当学年は何ですか? _____年生
- 2.2. 生徒は何人ですか? _____人
- 2.3. 学級の教師の数は何人ですか? 常勤の教師_____人 非常勤の教師_____人

- 2.4. 学級には他の人(教師など)がいますか(月単位で)? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、その内容は何ですか?

該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- 別の教師 (常、非)
- スクールカウンセラー (常、非)
- スクールサイコロジスト (常、非)
- 指導に関わるボランティア (常、非)
- 他の仕事に関するボランティア (常、非)
- 指導のサポートのための親 (常、非)
- 他の仕事のための親 (常、非)
- その他() (常、非)

- 2.5. 学級には学習障害のある生徒がいますか? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、
そのような生徒は何人いますか? _____人

そのための特別な教育(特殊教育)は何ですか?

- 読む () 数学 () 日常生活スキル
- 書く () 推論 () 移行(進学・就職・進路)
- 話す () 他の教科 () 行動・情緒
- 聞く () 社会的スキル () その他()

- 2.6. 学級には将来に向けての教育プログラムがありますか? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、それは何に向けてのプログラムですか?

- 普通高校に向けて () 他のタイプの学校に向けて
- 職業高校・職業学校に向けて () 仕事に向けて
- その他()

その内容は何ですか? そして、内(校内)か外(校外)に○を付けて下さい。

- 社会的スキルトレーニング (内、外)
- 日常生活スキルトレーニング (内、外)
- レクリエーション・余暇プログラム (内、外)
- 職業訓練プログラム (内、外)
- 労働プログラム (内、外)
- その他() (内、外)

3. サポート

3.1. 学習障害のある生徒は校内で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 教師から（通常の学級） | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 友達から（通常の学級） | <input type="checkbox"/> その他の人から（ |
| <input type="checkbox"/> 教師から（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> 特別に用意されたカリキュラムから |
| <input type="checkbox"/> 友達から（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 教師から（特殊学級） | <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 友達から（特殊学級） | <input type="checkbox"/> 特別に用意された教材から |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> その他の特別なセッティングから |
| <input type="checkbox"/> 校長から | <input type="checkbox"/> 特別に用意された宿題から |
| <input type="checkbox"/> 保健室の看護教師から | <input type="checkbox"/> その他（ |

3.2. 学習障害のある生徒は地域で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 訓練センター・訓練プログラムから | <input type="checkbox"/> カウンセリングセンターから |
| <input type="checkbox"/> 大学(カウンセリング・訓練など)から | <input type="checkbox"/> 親の会(サマーキャンプなど)から |
| <input type="checkbox"/> その他のリソースから（ | <input type="checkbox"/> なし |

3.3. あなたは校内でどのようなサポートを受けていますか？

<あなたの学校で>

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 通常の学級の教師から | <input type="checkbox"/> 保健室の教師から |
| <input type="checkbox"/> 通級指導教室の教師から | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 特殊学級の教師から | <input type="checkbox"/> その他の人から（ |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長から | |

<他の学校で>

- | | |
|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 他の中学校から | <input type="checkbox"/> 盲学校・聾学校・養護学校から |
| <input type="checkbox"/> 高校から | <input type="checkbox"/> その他の種類の学校から（ |
| <input type="checkbox"/> 小学校から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 幼稚園や保育園から | |

3.4. あなたは校外でどのようなサポートを受けていますか？

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 市や区の教育委員会から（例：現職教育） |
| <input type="checkbox"/> 都道府県の教育委員会から（例：現職教育） |
| <input type="checkbox"/> 教員組合から |
| <input type="checkbox"/> 学会から（例：日本特殊教育学会、日本学習障害学会等） |
| <input type="checkbox"/> 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から |
| <input type="checkbox"/> 大学や研究機関から |
| <input type="checkbox"/> 病院から |
| <input type="checkbox"/> その他の機関や専門家から（ |
| <input type="checkbox"/> なし |

3.5. 学習障害のある生徒の家族は校内でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（通常の学級） | <input type="checkbox"/> 保健室の教師との相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストとの相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（特殊学級） | <input type="checkbox"/> その他の人との相談（ |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師との相談 | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長との相談 | <input type="checkbox"/> 分からない |

3.6. 学習障害のある生徒の家族は校外でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 他の家族から | <input type="checkbox"/> 親の会から |
| <input type="checkbox"/> 大学の専門家から（教育・心理学） | <input type="checkbox"/> 大学の専門家から（医学） |
| <input type="checkbox"/> 病院の医師や専門家から | |
| <input type="checkbox"/> 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から | |
| <input type="checkbox"/> 地域のその他のリソースから（ | |
| <input type="checkbox"/> なし | <input type="checkbox"/> 分からない |

4. 家 族

4.1. 学習障害のある生徒に対する家族の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校生活を楽しむ | <input type="checkbox"/> 職業教育プログラムを学習する |
| <input type="checkbox"/> たくさん友達を作る | <input type="checkbox"/> 労働に関する学習をする |
| <input type="checkbox"/> 教科学習を進める | <input type="checkbox"/> コミュニケーションスキルを身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 社会的スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 人間関係のあり方を身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 日常生活スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 問題行動を改善する |
| <input type="checkbox"/> レクリエーションや余暇のスキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> その他 () |

4.2. 学習障害のある生徒の将来の進路の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 普通科高校に進学する | <input type="checkbox"/> その他の学校に進学する () |
| <input type="checkbox"/> 職業高校に進学する | <input type="checkbox"/> 働く |
| <input type="checkbox"/> 養護学校に進学する | <input type="checkbox"/> その他 () |

5. 指 導

5.1. 学習障害のある生徒を指導することに困難を感じますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施
- 特別なカリキュラムの作成
- 教科指導
- コミュニケーションスキルの指導
- 問題行動に関する指導
- 社会的スキルの指導
- 日常生活スキルの指導
- レクリエーションや余暇のスキルの指導
- 職業教育
- 労働に関する指導
- 特別な教材を用意したり作ったりすること
- 学級経営
- 評価
- 通常学級の教師との連携
- 通級指導教室の教師との連携
- 特殊学級教師との連携
- 他の専門家との連携 (スクールサイコロジスト、大学の専門家)
- 親との話し合い
- その他 ()

5.2. 学習障害のある生徒への指導は楽しいですか？ (はい、いいえ)

その理由を書いて下さい

[]

6. その他に必要と思われる情報がありましたらお書き下さい。

[]

ご回答いただき、ありがとうございました。

通常の学級の教員（高校）への質問紙

この調査は、学習に困難を示す生徒に焦点があてられています。その中には、学習障害(LD)といわれる生徒も含まれます。以下、このような生徒を「学習障害のある生徒」と言うことにします。

1. 教 員

1.1. どの教科を教えていますか？

該当する（ ）をチェックして下さい。

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 国語系 | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> コンピュータ |
| <input type="checkbox"/> 数学系 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 職業教育 |
| <input type="checkbox"/> 理科系 | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 労働に関する学習 |
| <input type="checkbox"/> 社会科系 | <input type="checkbox"/> 技術家庭科 | <input type="checkbox"/> 特殊教育（通級指導教室・特殊学級） |
| <input type="checkbox"/> その他（ | | ） |

1.2. その教室あるいは学級での学習指導以外の仕事は何ですか？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 通常学級での学習指導 | <input type="checkbox"/> カリキュラムの作成・管理など |
| <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 | |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 | |
| <input type="checkbox"/> 外国人・バイリンガル教育の担当 | <input type="checkbox"/> 職業教育・移行教育の担当 |
| <input type="checkbox"/> レクリエーション・課外活動・校外活動 | <input type="checkbox"/> 事務 |
| <input type="checkbox"/> 経理 | <input type="checkbox"/> 安全管理 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |
| | <input type="checkbox"/> なし |

1.3. これまでにどの種類の学級で教えましたか？

- | | |
|--|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 通常の学級 | <input type="checkbox"/> 特殊学級 |
| <input type="checkbox"/> 学習障害のある生徒を含む通常の学級 | <input type="checkbox"/> 巡回教師 |
| <input type="checkbox"/> 通級指導教室 | <input type="checkbox"/> その他（ |

1.4. これまでに通常の教育に関する現職教育を受けましたか？ （はい、いいえ）

もし、「はい」なら、その内容は何か？

該当する（ ）をチェックし、内（校内）か外（校外）を○で囲んで下さい。

<講義>

- | | |
|---|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教育哲学 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 指 導 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 学級経営 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての教育 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 他の教師との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 他の専門家（スクールサイコロジストなど）との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 親との協力 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 生徒や青年期の心理 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 生徒や青年期の医学 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

<実習>

- | | |
|---|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 指 導 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 教材の作成 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> アセスメント・評価 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> カウンセリング | <input type="checkbox"/> 内、外 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

1.5. 昨年度、通常の教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 教育哲学 (内、外)
- () 指 導 (内、外)
- () 学級経営 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家(スクールサイコロジストなど)との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 生徒や青年期の心理 (内、外)
- () 生徒や青年期の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 指 導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () アセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.6. これまでに特殊教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家(スクールサイコロジストなど)との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.7. 昨年度、特殊教育に関する現職教育を受けましたか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する () をチェックし、内 (校内) か外 (校外) を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家(スクールサイコロジストなど)との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- 障害のある生徒の指導 (内、外)
- 教材の作成 (内、外)
- 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- カウンセリング (内、外)
- その他 () (内、外)

2. 学 級

- 2.1. 担当学年は何ですか? _____年生
- 2.2. 生徒は何人ですか? _____人
- 2.3. 学級の教師の数は何人ですか? 常勤の教師_____人 非常勤の教師_____人
- 2.4. 学級には他の人(教師など)がいますか(月単位で)? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、その内容は何ですか?
該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。
- 別の教師 (常、非)
 - スクールカウンセラー (常、非)
 - スクールサイコロジスト (常、非)
 - 指導に関わるボランティア (常、非)
 - 他の仕事に関するボランティア (常、非)
 - 指導のサポートのための親 (常、非)
 - 他の仕事のための親 (常、非)
 - その他() (常、非)
- 2.5. 学級には学習障害のある生徒がいますか? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、
そのような生徒は何人いますか? _____人
- そのための特別な教育(特殊教育)は何ですか?
- 読む () 数学 () 日常生活スキル ()
 - 書く () 推論 () 移行(進学・就職・進路) ()
 - 話す () 他の教科 () 行動・情緒 ()
 - 聞く () 社会的スキル () その他() ()
- 2.6. 学級には将来に向けての教育プログラムがありますか? (はい、いいえ)
もし、「はい」なら、それは何に向けてのプログラムですか?
- 大学 () 他のタイプの学校に向けて ()
 - 短期大学に向けて () 仕事に向けて ()
 - 専門学校に向けて () その他() ()
- その内容は何ですか? そして、内(校内)か外(校外)に○を付けて下さい。
- 社会的スキルトレーニング (内、外)
 - 日常生活スキルトレーニング (内、外)
 - レクリエーション・余暇プログラム (内、外)
 - 職業訓練プログラム (内、外)
 - 労働プログラム (内、外)
 - その他() (内、外)

3. サポート

3.1. 学習障害のある生徒は校内で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 教師から(通常の学級) | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 友達から(通常の学級) | <input type="checkbox"/> その他の人から() |
| <input type="checkbox"/> 教師から(通級指導教室) | <input type="checkbox"/> 特別に用意されたカリキュラムから |
| <input type="checkbox"/> 友達から(通級指導教室) | <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別的教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 教師から(特殊学級) | <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別的教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 友達から(特殊学級) | <input type="checkbox"/> 特別に用意された教材から |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> その他の特別なセッティングから |
| <input type="checkbox"/> 校長から | <input type="checkbox"/> 特別に用意された宿題から |
| <input type="checkbox"/> 保健室の看護教師から | <input type="checkbox"/> その他() |

3.2. 学習障害のある生徒は地域で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 訓練センター・訓練プログラムから | <input type="checkbox"/> カウンセリングセンターから |
| <input type="checkbox"/> 大学(カウンセリング・訓練など)から | <input type="checkbox"/> 親の会(サマーキャンプなど)から |
| <input type="checkbox"/> その他のリソースから() | <input type="checkbox"/> なし |

3.3. あなたは校内でどのようなサポートを受けていますか？

<あなたの学校で>

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 通常の学級の教師から | <input type="checkbox"/> 保健室の教師から |
| <input type="checkbox"/> 通級指導教室の教師から | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 特殊学級の教師から | <input type="checkbox"/> その他の人から() |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長から | |

<他の学校で>

- | | |
|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 他的高校から | <input type="checkbox"/> 盲学校・聾学校・養護学校から |
| <input type="checkbox"/> 中学校から | <input type="checkbox"/> その他の種類の学校から() |
| <input type="checkbox"/> 小学校から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 幼稚園や保育園から | |

3.4. あなたは校外でどのようなサポートを受けていますか？

- 市や区の教育委員会から(例:現職教育)
- 都道府県の教育委員会から(例:現職教育)
- 教員組合から
- 学会から(例:日本特殊教育学会、日本学習障害学会等)
- 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から
- 大学や研究機関から
- 病院から
- その他の機関や専門家から()
- なし

3.5. 学習障害のある生徒の家族は校内でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 教師との相談(通常の学級) | <input type="checkbox"/> 保健室の教師との相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談(通級指導教室) | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストとの相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談(特殊学級) | <input type="checkbox"/> その他の人との相談() |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師との相談 | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長との相談 | <input type="checkbox"/> 分からない |

3.6. 学習障害のある生徒の家族は校外でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 他の家族から | <input type="checkbox"/> 親の会から |
| <input type="checkbox"/> 大学の専門家から(教育・心理学) | <input type="checkbox"/> 大学の専門家から(医学) |
| <input type="checkbox"/> 病院の医師や専門家から | |
| <input type="checkbox"/> 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から | |
| <input type="checkbox"/> 地域のその他のリソースから() | |
| <input type="checkbox"/> なし | <input type="checkbox"/> 分からない |

4. 家 族

4.1. 学習障害のある生徒に対する家族の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校生活を楽しむ | <input type="checkbox"/> 職業教育プログラムを学習する |
| <input type="checkbox"/> たくさん友達を作る | <input type="checkbox"/> 労働に関する学習をする |
| <input type="checkbox"/> 教科学習を進める | <input type="checkbox"/> コミュニケーションスキルを身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 社会的スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 人間関係のあり方を身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 日常生活スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 問題行動を改善する |
| <input type="checkbox"/> レクリエーションや余暇のスキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> その他 () |

4.2. 学習障害のある生徒の将来の進路の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 大学に進学する | <input type="checkbox"/> その他の学校に進学する () |
| <input type="checkbox"/> 短大に進学する | <input type="checkbox"/> 就職する |
| <input type="checkbox"/> 専門学校に進学する | <input type="checkbox"/> その他 () |

5. 指 導

5.1. 学習に障害のある生徒を指導することに困難を感じますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施
- 特別なカリキュラムの作成
- 教科指導
- コミュニケーションスキルの指導
- 問題行動に関する指導
- 社会的スキルの指導
- 日常生活スキルの指導
- レクリエーションや余暇のスキルの指導
- 職業教育
- 労働に関する指導
- 特別な教材を用意したり作ったりすること
- 学級経営
- 評価
- 通常学級の教師との連携
- 通級指導教室の教師との連携
- 特殊学級教師との連携
- 他の専門家との連携 (スクールサイコロジスト、大学の専門家)
- 親との話し合い
- その他 ()

5.2. 学習障害のある生徒への指導は楽しいですか？ (はい、いいえ)

その理由を書いて下さい

--

6. その他に必要と思われる情報がありましたらお書き下さい。

--

ご回答いただき、ありがとうございました。

通級指導教室の教員および特殊学級の教員（中学校）への質問紙

この調査は、学習に困難を示す生徒に焦点が当てられています。その中には、学習障害(LD)といわれる生徒も含まれます。以下、このような生徒を「学習障害のある生徒」と言うことにします。

1. 教 員

1.1. 次の教室あるいは学級のどちらで教えていますか。

- 通級指導教室 特殊学級

1.2. その教室あるいは学級での学習指導以外の仕事は何ですか？

- 通常学級での学習指導 カリキュラムの作成・管理など
 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施
 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施
 外国人・バイリンガル教育の担当 職業教育・移行教育の担当
 レクリエーション・課外活動・校外活動 事務
 経理 安全管理
 その他 () なし

1.3. これまでにどの種類の学級で教えましたか？

- 通常の学級 特殊学級
 学習障害のある生徒を含む通常の学級 巡回教師
 通級指導教室 その他 ()

1.4. これまでに通常の教育に関する現職教育を受けましたか？

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する をチェックし、内(校内)か外(校外)を○で囲んで下さい。

<講義>

- 教育哲学 (内、外)
 指 導 (内、外)
 学級経営 (内、外)
 将来の進学や就労に向けての教育 (内、外)
 他の教師との協力 (内、外)
 他の専門家(スクールサイコロジストなど)との協力 (内、外)
 親との協力 (内、外)
 生徒や青年期の心理 (内、外)
 生徒や青年期の医学 (内、外)
 その他 () (内、外)

<実習>

- 指 導 (内、外)
 教材の作成 (内、外)
 アセスメント・評価 (内、外)
 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
 カウンセリング (内、外)
 その他 () (内、外)

1.5. 昨年度、通常の教育に関する現職教育を受けましたか？

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する（ ）をチェックし、内（校内）か外（校外）を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 教育哲学 (内、外)
- () 指 導 (内、外)
- () 学級経営 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家（スクールサイコロジストなど）との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 生徒や青年期の心理 (内、外)
- () 生徒や青年期の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 指 導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () アセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.6. これまでに特殊教育に関する現職教育を受けましたか？

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する（ ）をチェックし、内（校内）か外（校外）を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家（スクールサイコロジストなど）との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 教材の作成 (内、外)
- () 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- () 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- () カウンセリング (内、外)
- () その他 () (内、外)

1.7. 昨年度、特殊教育に関する現職教育を受けましたか？

もし、「はい」なら、その内容は何ですか？

該当する（ ）をチェックし、内（校内）か外（校外）を○で囲んで下さい。

<講義>

- () 特殊教育の哲学 (内、外)
- () 障害のある生徒の指導 (内、外)
- () 障害のある生徒を含む学級の経営 (内、外)
- () 障害のある生徒の移行教育 (内、外)
- () 他の教師との協力 (内、外)
- () 他の専門家（スクールサイコロジストなど）との協力 (内、外)
- () 親との協力 (内、外)
- () 障害の心理 (内、外)
- () 障害の医学 (内、外)
- () その他 () (内、外)

<実習>

- 障害のある生徒の指導 (内、外)
- 教材の作成 (内、外)
- 障害のある生徒のアセスメント・評価 (内、外)
- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施 (内、外)
- カウンセリング (内、外)
- その他 () (内、外)

2. 学 級

2.1. 担当学年は何ですか? _____年生

2.2. 生徒は何人ですか? _____人

2.3. 学級の教師の数は何人ですか? 常勤の教師_____人 非常勤の教師_____人

2.4. 学級には他の人(教師など)がいますか(月単位で)?

もし、「はい」なら、その内容は何か?

該当する()をチェックし、常(常勤)か非(非常勤)を○で囲んで下さい。

- 別の教師 (常、非)
- スクールカウンセラー (常、非)
- スクールサイコロジスト (常、非)
- 指導に関わるボランティア (常、非)
- 他の仕事に関するボランティア (常、非)
- 指導のサポートのための親 (常、非)
- 他の仕事のための親 (常、非)
- その他() (常、非)

2.5. 学級には学習障害のある生徒がいますか? (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、

そのような生徒は何人いますか? _____人

そのための特別な教育(特殊教育)は何ですか?

- 読む () 数学 () 日常生活スキル ()
- 書く () 推論 () 移行(進学・就職・進路) ()
- 話す () 他の教科 () 行動・情緒 ()
- 聞く () 社会的スキル () その他() ()

2.6. 学級には将来に向けての教育プログラムがありますか? (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何に向けてのプログラムですか?

- 通常の学級に向けて () 他のタイプの学校に向けて ()
- 通級指導教室に向けて () 仕事に向けて ()
- 普通高校に向けて () その他() ()
- 職業高校・職業学校に向けて ()

その内容は何か? そして、内(校内)か外(校外)に○を付けて下さい。

- 社会的スキルトレーニング (内、外)
- 日常生活スキルトレーニング (内、外)
- レクリエーション・余暇プログラム (内、外)
- 職業訓練プログラム (内、外)
- 労働プログラム (内、外)
- その他() (内、外)

3. サポート

3.1. 学習障害のある生徒は校内で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 教師から（通常の学級） | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 友達から（通常の学級） | <input type="checkbox"/> その他の人から（) |
| <input type="checkbox"/> 教師から（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> 特別に用意されたカリキュラムから |
| <input type="checkbox"/> 友達から（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> 教科学習や行動面に関する個別の教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 教師から（特殊学級） | <input type="checkbox"/> 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画 |
| <input type="checkbox"/> 友達から（特殊学級） | <input type="checkbox"/> 特別に用意された教材から |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> その他の特別なセッティングから |
| <input type="checkbox"/> 校長から | <input type="checkbox"/> 特別に用意された宿題から |
| <input type="checkbox"/> 保健室の看護教師から | <input type="checkbox"/> その他（) |

3.2. 学習障害のある生徒は地域で特別な援助を受けていますか？

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 訓練センター・訓練プログラムから | <input type="checkbox"/> カウンセリングセンターから |
| <input type="checkbox"/> 大学(カウンセリング・訓練など)から | <input type="checkbox"/> 親の会(サマーキャンプなど)から |
| <input type="checkbox"/> その他のリソースから（) | <input type="checkbox"/> なし |

3.3. あなたは校内でどのようなサポートを受けていますか？

<あなたの学校で>

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 通常の学級の教師から | <input type="checkbox"/> 保健室の教師から |
| <input type="checkbox"/> 通級指導教室の教師から | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストから |
| <input type="checkbox"/> 特殊学級の教師から | <input type="checkbox"/> その他の人から（) |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長から | |

<他の学校で>

- | | |
|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 他の高校から | <input type="checkbox"/> 盲学校・聾学校・養護学校から |
| <input type="checkbox"/> 中学校から | <input type="checkbox"/> その他の種類の学校から（) |
| <input type="checkbox"/> 小学校から | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 幼稚園や保育園から | |

3.4. あなたは校外でどのようなサポートを受けていますか？

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 市や区の教育委員会から（例：現職教育） |
| <input type="checkbox"/> 都道府県の教育委員会から（例：現職教育） |
| <input type="checkbox"/> 教員組合から |
| <input type="checkbox"/> 学術学会から（例：日本特殊教育学会、日本学習障害学会など） |
| <input type="checkbox"/> 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から |
| <input type="checkbox"/> 大学や研究機関から |
| <input type="checkbox"/> 病院から |
| <input type="checkbox"/> その他の機関や専門家から（) |
| <input type="checkbox"/> なし |

3.5. 学習障害のある生徒の家族は校内でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（通常の学級） | <input type="checkbox"/> 保健室の教師との相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（通級指導教室） | <input type="checkbox"/> スクールサイコロジストとの相談 |
| <input type="checkbox"/> 教師との相談（特殊学級） | <input type="checkbox"/> その他の人との相談（) |
| <input type="checkbox"/> 巡回教師との相談 | <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> 校長との相談 | <input type="checkbox"/> 分からない |

3.6. 学習障害のある生徒の家族は校外でどのようなサポートを受けていますか？

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 他の家族から | <input type="checkbox"/> 親の会から |
| <input type="checkbox"/> 大学の専門家から（教育・心理学） | <input type="checkbox"/> 大学の専門家から（医学） |
| <input type="checkbox"/> 病院の医師や専門家から | |
| <input type="checkbox"/> 特殊教育センターや教育センターの特殊教育部から | |
| <input type="checkbox"/> 地域のその他のリソースから（) | |
| <input type="checkbox"/> なし | <input type="checkbox"/> 分からない |

4. 家 族

4.1. 学習障害のある生徒に対する家族の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校生活を楽しむ | <input type="checkbox"/> 職業教育プログラムを学習する |
| <input type="checkbox"/> たくさん友達を作る | <input type="checkbox"/> 労働に関する学習をする |
| <input type="checkbox"/> 教科学習を進める | <input type="checkbox"/> コミュニケーションスキルを身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 社会的スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 人間関係のあり方を身に付ける |
| <input type="checkbox"/> 日常生活スキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> 問題行動を改善する |
| <input type="checkbox"/> レクリエーションや余暇のスキルを身に付ける | <input type="checkbox"/> その他 () |

4.2. 学習障害のある生徒の将来の進路の目標を知っていますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 普通科高校に進学する | <input type="checkbox"/> その他の学校に進学する () |
| <input type="checkbox"/> 職業高校に進学する | <input type="checkbox"/> 働く |
| <input type="checkbox"/> 養護学校に進学する | <input type="checkbox"/> その他 () |

5. 指 導

5.1. 学習に障害のある生徒を指導することに困難を感じますか？ (はい、いいえ)

もし、「はい」なら、それは何ですか？

- 教科学習や行動面に関する個別の教育計画の作成・実施
- 将来の進学や就労に向けての個別の教育計画の作成・実施
- 特別なカリキュラムの作成
- 教科指導
- コミュニケーションスキルの指導
- 問題行動に関する指導
- 社会的スキルの指導
- 日常生活スキルの指導
- レクリエーションや余暇のスキルの指導
- 職業教育
- 労働に関する指導
- 特別な教材を用意したり作ったりすること
- 学級経営
- 評価
- 通常学級の教師との連携
- 通級指導教室の教師との連携
- 特殊学級教師との連携
- 他の専門家との連携 (スクールサイコロジスト、大学の専門家)
- 親との話し合い
- その他 ()

5.2. 学習障害のある生徒への指導は楽しいですか？ (はい、いいえ)

その理由を書いて下さい

[]

6. その他に必要と思われる情報がありましたらお書き下さい。

[]

ご回答いただき、ありがとうございました。

謝 辞

本調査を進めるに当たって、多くの方々のご協力をいただいた。日本側の調査では、3大都市圏の各地区の教育委員会の様々な担当者の方々には、本調査の趣旨を快くご理解いただくと同時に、地区内の関係学校へのアンケート用紙の配布にあたり多大なご協力をいただいた。また、実際にアンケートに回答してくださった中学校・高等学校の校長先生と教員の方々には、2学期という大変忙しい時期にもかかわらず丁寧な回答を寄せていただいた。この場を借りて、感謝申し挙げる次第である。また、前期及び後期中等教育段階で学習障害のある生徒への教育の現状と課題について日米比較するという筆者のプランを心から支援していただき、アメリカ側の調査の後、今回の日本側の調査についても調査結果をまとめるまで継続してアドバイス下さった、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のバーバラ教授 (Dr. Barbara K. Keogh) に感謝したい。この報告書で、日米の調査結果を比較検討する際にも貴重な示唆をいただいた。

注：

この研究は、文部科学省の科学研究費補助金(C) 平成11～13年度：中等教育及び高等教育段階で学習障害をもつ学生へのサポートに関する日米比較研究 ～アメリカカリフォルニア州地区と日本3大都市圏を対象に～ (研究代表者：柘植雅義) によって行われた研究の一部である。

平成13年(2001年)5月 発行

問い合わせ先

柘 植 雅・義

国立特殊教育総合研究所

軽度知的障害教育研究室

住所 〒239-0841

神奈川県横須賀市野比5-1-1

電話 0468-48-4121

FAX 0468-49-5563

URL <http://www.nise.go.jp>